

愛知学院大学

教養部紀要

第73巻 第1号

論文

- 野田 大志：外来語「セレブ」の現代語誌……………（1）
- 松 永 諭：Pd 錯体を開口部に導入した新規 Open-Dawson 型ポリ酸塩の合成と構造……………（27）
- 山 口 均：『ピーターラビットのおはなし』新訳を読む……………（35）

2025

愛知学院大学教養部

外来語「セレブ」の現代語誌

野 田 大 志

要旨

本稿は、外来語「セレブ」の意味、文法、使用実態の諸相について、時代背景との関連も視野に入れつつ、共時的に考察し、記述したものである。まず、辞書や資料による「セレブ」の意味記述を概観した。次に、「セレブ」の複数の語義を認定し、その相互関係を明らかにした。続いて、BCCWJとTWCという2種類のコーパスで収集した実例の観察を通して、「セレブ」という語の使用実態を詳細に捉え、かつ、「セレブ」の語義におけるマイナスの評価性の発生メカニズムについて論じた。最後に、[セレブ(=X)なのにY]構文の意味の検討を通して、「セレブ」と呼称される対象への、人々のステレオタイプの多様性について明らかにした。

キーワード：セレブ、現代語誌、コーパス、評価性、百科事典的知識、ステレオタイプ

1. はじめに

本稿は、現代語における外来語¹⁾「セレブ」を対象として、現代語誌という観点から分析し記述するものである。

なお「現代語誌」の定義については、小野(2018: 415)を踏まえつつ、「ある現代語およびそれと関連する現代語の、共時的な様相を記述したもの」と位置づける。特に本稿では、「セレブ」の意味的・文法的ふるまいや、時代背景・社会的背景と「セレブ」の使用との相関、そして「セレブ」と呼称される対象に対するステレオタイプの多面性を中心に考察する。

その際、コーパス及び検索エンジン Google を用いて用例を収集する。「コーパス」²⁾とは、「私たちが様々なコミュニケーション場面で実際に使った言葉を、あちこちから大量に集めて

電子化した言葉の貯蔵庫」(砂川 2024: 4) である。

また、本稿では語の「意味」について、靱山 (2018: 38) の「その語から想起される (可能性はある) 母語話者が有する知識の総体」という定義に基づき、考察を行う。この、「意味」に対する広い位置づけの背景には、百科事典の意味観という、語の意味に対する考え方が存在する。すなわち、「従来峻別すべきであるとされてきた言語に関する知識と事物・世界に関する知識が連続的である」(靱山 2018: 38) という考え方である。なお、これ以降、本稿では語の意味、あるいはその一部である意味特徴を山形括弧〈 〉で括って示すこととする。

ところで、現代日本語の実例 (例えば、商品名、サービス名など) には、「セレブ」という片仮名表記に加え、「celeb」というアルファベット表記や「せれぶ」という平仮名表記も存在する。これら表記の違いが読み手に与える印象の、些かの相違はあるが、現代日本語においては「セレブ」という片仮名表記の使用頻度が圧倒的に高いことに鑑み、本稿では「セレブ」の実例を対象とした考察³⁾を行うこととする。

以下、本稿の構成を簡単に述べておく。まず第2節では、現行の辞書・事典類や、現代日本語に関する一般向けの記事における「セレブ」(及びこれに対応する英語 *celebrity* と *celeb*) の意味記述について概観する。次に第3節では、2種類のコーパス検索システムを用いて収集した実例を対象とした、「セレブ」の意味・文法の考察を行う。続いて第4節では、[XなのにY] という構文での「セレブ」の使用からみるステレオタイプの様相について、Google 検索の結果を踏まえて考察する。最後に、第5節はまとめと今後の課題を示す。

2. 「セレブ」に関する従来の意味記述

2.0 はじめに

本節では、従来の辞書・事典類やその他の媒体での、「セレブ」の意味に関する諸々の記述を概観する。

2.1 辞書・事典類⁴⁾における「セレブ」の語釈について

まず、『デジタル大辞泉』(小学館)⁵⁾における「セレブ」の語釈を (1) に示す。

(1) 著名人。名士。セレブリティー。

『デジタル大辞泉』では、「セレブ」は単義語として扱われている。一方、『新明解国語辞典』第八版 (三省堂) では、(2) に示すように多義語として扱われている。

(2) 語義 1 : (マスコミで話題にされるような) 有名人。

語義 2 : 財力のある、上流社会の人。また、そのような雰囲気を漂わせている様子 (人)。

また、『現代用語の基礎知識』2024年版⁶⁾(自由国民社)でも、(2)に類する記述が示されている。以下、(3)に挙げる。

(3) 有名人。名士。一流人。セレブリティ (celebrity) の略。「セレブな」は「有名な、一流の、高級な」の意味として使われる。

なお、現代語における「セレブ」の実例の観察を踏まえると、筆者はこれらの語釈に対して(4)に示すような問題点を見出す。

(4) 問題点その 1 : 現代日本語において、〈有名人〉という意味のみで「セレブ」が用いられているとは考えられない。「セレブ」のプロトタイプの意味⁷⁾においては、〈財力がある〉、〈上流社会に身を置く〉という意味特徴が、〈有名人〉という意味特徴と分ち難く結び付いているのではないか。

問題点その 2 : 『新明解国語辞典』における語義 2 は、異なる 2 つの語義として区分すべきなのではないか。

問題点その 3 : 前述のプロトタイプの意味から、〈有名である〉という意味特徴が消失した語義も存在するのではないか。

問題点その 4 : 現代日本語において、「セレブ」という語にしばしば結び付く、マイナスの評価性 (= ある人が他者に対して抱く、好ましくない印象) について、現行の辞書・事典類では言及されていない。

以下、(4)に挙げた 4 つの問題点について順に補説する。

まず、問題点その 1 について、従来の辞書・事典類において概略、〈有名人〉という語義⁸⁾が提示されたのは、恐らく英語における celebrity 及び celeb のプロトタイプの意味からの影響であると思われる。参考までに、(5)に『ランダムハウス英和大辞典』第 2 版 (小学館)⁹⁾における celebrity 及び celeb の語釈を提示する。

(5) celebrity の語釈

n.

1 (pl. -ties) 有名人, 著名人, 名士; (有名) 芸能人

literary and artistic celebrities

文学界・芸術界の名士たち

a celebrity fucker

((俗)) 芸能人と寝るファン

The trial made him quite a celebrity.

その裁判で彼はすっかり有名人になった.

2 高名, 名声, 令名

works of worldwide celebrity

世界的に知られた名作

gain [or achieve, attain] celebrity

有名になる, 名声を博す.

fall [or walk] into celebrity

一躍有名になる

3 ((形容詞的)) 名士的な, 有名な

The macaws are the celebrity fauna of the region.

コンゴウインコはその地域の動物の名士である.

[中期英語〈ラテン語 *celebritas* 繁華, 名声, 祝祭 (*celeber* 「頻繁な, 有名な」より)]

celeb の語釈

n. ((話)) 名士, 有名人

[1912. CELEBRITY の短縮形]

現代日本語の外来語としての「セレブ」は、英語の *celebrity* 及び *celeb* の語義をそのまま踏襲したものではなく、日本語において独自に意味特徴が付加された語義として使用されていると考えられる。

次に (4) の問題点その2であるが、〈ある種の人〉を表す語義 (= 名詞としての「セレブ」) と、〈人の有するある種の属性〉を表す語義 (= 形容動詞語幹としての「セレブ (な)」) とは、異なる語義として区分する必要があると考えられる。

次に (4) の問題点その3であるが、現代日本語においては、後に本稿第3節にも示すように、〈有名である〉わけでなくとも、概略、〈財力がある〉という特徴を有する (一般の) 人に対して「セレブ」が用いられる場合が相当数存在する。

最後に (4) の問題点その 4 について、マイナスの評価性は、「セレブ」の語義の変化において特筆すべき点¹⁰⁾である。これについては、本稿第 3 節及び第 4 節で詳述する。

2.2 「三省堂 WORD-WISE WEB」における「セレブ」の記述

さて、三省堂辞書ウェブ編集部は三省堂公式ウェブサイト内で、WORD-WISE WEB¹¹⁾という一般読者向けの記事を公開している。これは、辞書や言葉に関する様々なトピックを扱った記事であるが、その中で、三省堂編修所が2004年11月8日に、「10分でわかるカタカナ語」という特集記事の第1回¹²⁾として、「セレブ」という語について概説している。ここでは、この記事が公開された2004年当時の「セレブ」の意味や語感について、的確に記述されている。以下、(6) にその概要を示す。

(6) 三省堂編修所 (2004) の概要

記事の小見出し ¹³⁾	概要
どういう意味？	名声を得ている有名人・名士
もう少し詳しく教えて	・セレブリティ (celebrity) の略。 ・原義では単に「名声を得ている有名人・名士」というだけの意味だが、暗に有名な俳優・ファッションモデル・スポーツ選手・実業家などをさすことも多い。マスコミが好んでその動静を伝えるような人物である。 ・日本語で言う「セレブ」には、しばしば「経済的な豊かさ」「華やかさ」「優雅さ」「一流」などのニュアンスが伴うことがある。具体的な人物としては、ヒルトンホテル創業者の曾孫である「ヒルトン姉妹」などが挙げられる。
どんな時に登場する言葉？	・主に女性誌・ワイドショーなどのメディアや、化粧品・ファッション用品などの広告によく登場する語。 ・例えば女性誌では「ファッション業界とセレブの最新事情」などの見出し、化粧品の広告では「セレブに人気のコスメ」などのコピーなどが具体例として挙げられる。 ・最近では、経済誌などの堅いメディアでも「ビジネスセレブ」(ビジネス界における一流の人) などの言葉が用いられるようになった。
どんな経緯でこの語を使うように？	・日本でセレブという略語が使われるようになったのは1990年代の末期からである。 ・最初は海外ファッションに強い女性誌が、海外の有名女優・モデルをさして用いた表現だった。 ・当時スーパーモデル (世界でもトップクラスにあるファッションモデル) の人気が高まっていたことや、高級ブランドがブーム化したことが背景にある。 ・このような有名人たちのファッションや行動 (例えばパーティーでの振る舞いなど) は、古今東西を問わず、メディアによる格好の取材対象となる。このような「興味本位に基づいた」報道姿勢は、アメリカでセレブリティジャーナリズム (celebrity journalism) と呼ばれる。

	・その後の日本では、叶姉妹が雑誌・テレビなどに登場するようになり、セレブという概念が大衆化するきっかけを作った。 ・またヒルズ族（2005年頃からの流行語）が台頭したことから、新興の経済的成功者もセレブと呼ばれるようになった。 ・さらには、「セレブ犬」などの用法も登場するようになり、この言葉の持つ「ありがたみ」も少しずつ薄れているようである。
セレブの使い方を 実例で教えて！	・「セレブ御用達」 ・「海外セレブ」 ・「セレブな〇〇」（例：「セレブな気分でお食事」） ・「セレブカジュアル」（いわゆるハリウッドセレブが、日常や遊びなどの場で好んで着用するカジュアルファッションのことを指す。ラインストーンなどによって適度な豪華さが演出されていること、露出度が大きくてセクシーであることなどが、特徴として挙げられる。） ・「セレブ買い」（金に糸目を付けずに買い物する行為を指す。「値札など見ない」「棚にあるものは全部買う」「悩まない」などの豪快な行動を指す。） ・造語（例：「セレブ婚」（＝玉の輿）、「セレブ妻」（＝お金持ち男性の妻）、「セレブ犬」（＝有名人が飼う犬）など。）
言い換えたい場合 は？	・分かりやすく言い換えたい場合は「有名人・名士」という表現を使うことができるが、上流階級の雰囲気・豪華さ・話題性の高さなどのニュアンスが抜け落ちてしまう。そのため、「有名人・名士」に置き換える場合には、別の語でこれらのニュアンスを補う必要がある。

本稿でも、「セレブ」のプロトタイプの意味の認定においては、以上の説明を踏まえることとする。但し、(4)の問題点その4に示したマイナスの評価性については、(6)の説明では言及されていない。換言すれば、「セレブ」という語の大衆化は認められるものの2004年当時は、「セレブ」という語にはマイナスの評価性はほぼ結び付いていなかった可能性があり、この点についてはそれ以降の時点での実例に基づき、別途、検討する必要がある。

3. コーパスで収集した実例から見出せる「セレブ」の諸々の特徴

3.1 「セレブ」の複数の語義とそれらの相互関係

本節では、2種類のコーパスを用いて収集した実例から見出せる、「セレブ」という語の諸々の意味的・文法的特徴について論じる。その前提として、「セレブ」の多義の認定を行う。結論を先取りすると、前節での検討、及び実例の観察を踏まえると、「セレブ」には、現代日本語において確立した3つの語義が認められる。以下、これらを(7)に示す。

(7) 多義語「セレブ」の複数の語義

語義1：〈豊かな財力があり、上流社会に身を置いて、華やかで優雅な生活を送っている

（しばしばマスメディアで取り上げられる）有名人。）

語義2：〈豊かな財力があり、華やかで優雅な生活を送っている人。〉

語義3：〈豊かな財力を背景とした、華やかで優雅なさま。〉

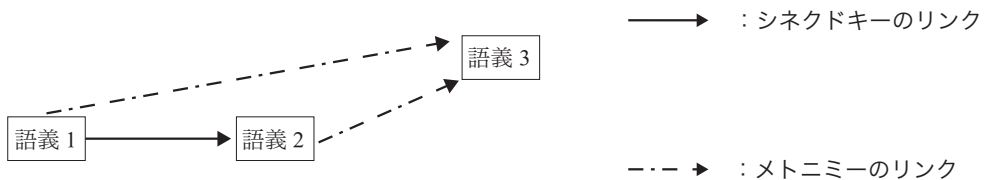
まず、語義1が「セレブ」のプロトタイプの意味である。この語義は、あくまで〈有名人〉である必要がある。

時代が進むにつれ、三省堂編修所（2004）の言葉を借りれば、「セレブ」の「大衆化」により、〈豊かな財力があり、華やかで優雅な生活を送っている人〉であれば、〈有名人〉でなくとも「セレブ」という呼称が使用可能となった。その結果が反映されたのが、語義2である。

さて、語義1と語義2が、ある種の〈人〉を表す名詞として用いられるのに対して、語義3は前述のとおり、形容動詞の語幹¹⁴⁾として用いられる。この場合、「セレブ」に後続するのは、〈人〉を表す名詞（句）のみならず、「セレブなホテル」のような〈環境〉を表す名詞（句）、「セレブな生き方」のような〈人生のありよう〉を表す名詞（句）なども含まれる。

次に、(8)に「セレブ」の3つの語義の相互関係を図示する。

(8) 「セレブ」の相互関係の略図



以下、(8)について説明する。多義語のある語義と異なる語義とを結び付けるリンクとして、一般にメタファー（隠喩）、シネクドキー（提喩）、メトニミー（換喩）という3つの比喩¹⁵⁾が挙げられる。このうち、「セレブ」の意味拡張に関連するのは、シネクドキーとメトニミーである。シネクドキーは、多門（2018: 771）によれば「カテゴリを示してそれに属する特定のメンバを意味したり、逆に特定のメンバを示してそれを包含するカテゴリを意味する比喩」である。換言すれば、〈種〉から〈類〉へ、あるいは〈類〉から〈種〉への意味拡張である。また、メトニミーは、多門（2018: 772）によれば「関与性に基づく比喩」であり、それは「伝達したい意味を逐一表現化することなく、経験的・百科事典的知識に依拠しながら、省略表現を産出し、聞き手・読み手の方は同じく知識に依拠しながら、省略表現に、いわば辻褄が合うような解釈を施している」という仕組みに基づくものである。

さて、語義1は前述のとおり、〈豊かな財力があり、上流社会に身を置いて、華やかで優雅な生活を送っている（しばしばマスメディアで取り上げられる）有名人。〉である。ここには、〈有名人〉という限定がある。しかし、「セレブ」の大衆化を経た語義2は、〈豊かな財力があり、華やかで優雅な生活を送っている〉人であれば、どんな人でも当てはまる。すなわち、語義2を〈類〉とするならば、語義1は〈その一種〉である。よって、語義1から語義2へは、〈種（特定のメンバ）〉から〈類（それを包含するカテゴリ）〉へと、シネクドキーによって拡張していると位置づけられる。

また、語義1は〈豊かな財力があり、上流社会に身を置いて、華やかで優雅な生活を送っている（しばしばマスメディアで取り上げられる）有名人。〉であり、語義2は〈豊かな財力があり、華やかで優雅な生活を送っている人。〉である。一方、語義3は、そのような人の〈属性（性質・特徴）〉のみを焦点化した意味である。すなわち語義1・2と語義3の間からは、〈ある種の人〉と、〈そういった人の属性〉との「関与性」を見出すことができ、両者はメトニミー¹⁶⁾によって関連づけられる。

3.2 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』における「セレブ」の実例について

3.2.1.0 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』について

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（略称はBCCWJ）は、現代日本語の書き言葉の全体像を把握するために、国立国語研究所によって構築されたコーパスである。現在、日本語について入手可能な唯一の均衡コーパスである。ここには、書籍全般、雑誌全般、新聞、白書、ブログ、ネット掲示板、教科書、法律などのジャンルにまたがって1億430万語のデータが格納されており、各ジャンルについて無作為にサンプルが抽出されている。収録対象の刊行年代は、最大30年間（1976～2005）であり、メインとなる書籍の場合は、1986から2005年である。なお、このコーパスのオンライン検索システムとして、「NINJAL-LWP for BCCWJ」（略称はNLB）¹⁷⁾がある。本稿では、このNLBを用いて、「セレブ」の実例を収集した。その総数は、233例であった。以下、そのうち特に頻度の高かったパターン¹⁸⁾について、主な実例¹⁹⁾から見出せる諸々の特徴を述べる。

なお、特筆すべきこととして、233例の中に、「セレブ」によって表される対象（となる人やその他の存在）にマイナス評価が与えられている事例は見当たらなかった。

3.2.1.1 「セレブ+助詞」のパターン²⁰⁾

このパターンの代表例は、[が]が7例、[は]が7例、[に]が8例、[を]が7例であった。いずれも〈名詞〉としての語義（語義1あるいは2）であった。以下、主な実例を提示し

ていく。(なおこれ以降、語義 1 に相当する実例の場合には末尾に m1、語義 2 に相当する実例の場合には末尾に m2、語義 3 に相当する実例の場合には末尾に m3 と記載する。また、これ以降、実例全体を鍵括弧で括って示す。)

- (9) a. 「独占販売されているフレグランスをセレブが通うパーニーズで優雅に GET 常にトレンドをリードしてきたケイト・モスが愛用中のフレグランスはパッケージも◎。」(JJ, 2003, 一般) : m1
- b. 「確かにセレブ向けであれば、おサイフケータイは不要なはず(そもそもセレブはコンビニで買い物はしないし、電車で移動もしない)。」(Yahoo! ブログ, 2008, Yahoo! ブログ) : m2
- c. 「普段から女はもっと綺麗にすべきではないかと思いますが、本当のセレブは気取らず普段は素になるの²¹⁾ものでしょうか？」(Yahoo! 知恵袋, 2005, ファッション) : m2
- d. 「自分の居場所さえ体裁を繕えば、他人に迷惑をかけたり、嫌な思いをさせても何とも思わない…これは、ベンツ、ビーエム、レクサスなどの高級車、或いはアルファードやエルグランドなどの高級ミニバンを、マナーも弁えずに我が物顔で乗り回すエセ・セレブにも通じるものがあります。」(Yahoo! ブログ, 2008, 日本) : m2
- e. 「●特徴：トレンドのリボンディテールも、“マノロ”ならこんなに洗練された印象に。世界中のセレブを魅了するブランドならではのデザインパンプスを楽しみたい。」(Precious, 2005, 家庭／生活) : m1

これらの実例において、特に「セレブ」と共起する様々な語の意味特徴を捉えることで、「セレブ」と呼称される人の属性が見出せる。例えば (9a) の「優雅」、(9e) の「洗練された印象」などである。また、(この当時の)「セレブ」に期待される行動パターンや生き方に関する様々な特徴も見出せる。例えば (9b) の「買い物はしないし、電車で移動もしない」とか、(9c) の「気取らず普段は素になる」などである。また、(9d) は逆説的な例であるが、ここからも「自分の居場所さえ体裁を繕えば、他人に迷惑をかけたり、嫌な思いをさせても何とも思わない」といったことは、真のセレブであればしないであろう、という価値判断が見出せる。

ところで、(9c) や (9d) からは、〈豊かな財力がある〉という点だけは本来の「セレブ」と共通するものの、(本来の「セレブ」に期待される立ち居振る舞いではない) 好ましくない立ち居振る舞いをするような人は、「セレブ」とは言えない、という当時の価値判断が見出せる。換言すれば、「セレブ」に対する明確なプラス評価が見出せるといえる。

3.2.1.2 「セレブっぽい」のパターン

「セレブっぽい」というパターンは、5例あった。以下、主な実例を示す。

- (10) a. 「インナーをフェミニンにするとセレブっぽいイメージに。」(CLASSY., 2004, 一般) :

m1

b. 「白のパンツスーツ スーツのきちんと感に白がセレブっぽさを加えてくれるのが魅力。できる限り細身のものを選んでシャープにすべし。」(JJ, 2002, 一般) : m1

c. 「●カンパニヤ マリチマ スポーティなメッシュ×ゴールドのバックルが海外セレブっぽいと大好評で残りあと3着になりました。」(JJ, 2005, 一般) : m1

このパターンにおいては、ファッションにおける色やデザインに関する言及がなされており、雑誌を読む一般読者が(m1における)「セレブ」に近付くための様々な特徴・方法が示されている。例えば、(10a)の(インナーの)「フェミニン」さ、(10b)の(スーツの)「白」、(10c)の「スポーティなメッシュ×ゴールドのバックル」などである。

3.2.1.3 「セレブ」を前項要素とする合成名詞のパターン

「セレブ」を前項要素とする合成名詞のパターンについて、最も多かったのは「セレブ+名詞」の41例である。例えば、「セレブ気分」(5例)、「セレブ御用達」(5例)などが挙げられる。以下、主な実例を示す。

- (11) a. 「ホテルで何をして過ごしますか？ バブルパスでセレブ気分♪ ルームサービスで

お腹も満たされラウンジでバーテンダーとの会話を楽しみ 最後はお部屋でマッサージ(^0^)」(Yahoo! 知恵袋, 2005, 海外) : m2

b. 「日本から比較的近いハワイでチャレンジ。ビーチを眺めながらセレブ気分でゆったりとヨガを体験。」(JJ, 2003, 一般) : m2

c. 「ビーチで焼いた後にムームー姿でCTスキャン。なんてセレブ御用達病院も海外にはあるそうです。病気を治す、というより体を休めに病院へ行く。」(BRUTUS, 2001, 一般) : m1

d. 「アディダスのジャージーとバッグでスポーティーなコーディネートながら、キャリーバッグはセレブ御用達のヴィトンのダミエ・ラインのベガス(18万8000円)で。」(女性セブン, 2004, 一般) : m1

まず、(11a)、(11b) のような「セレブ気分」は、「セレブ」と同等の環境で、同等の過ごし方をすることによって、(本来は「セレブ」ではないとしても)〈セレブであるかのような気分〉が味わえることが示された事例である。また、(11c)、(11d) のような「セレブ御用達」では、雑誌の読者に対して、(m1 の)「セレブ」が常に愛用している環境や商品を紹介する事例である。

さて、[セレブ+名詞] に次いで多かったのは、[セレブ+名詞化接尾辞] というパターンであり、33 例である。「セレブ向け」(6 例)、「セレブ感」(5 例)、「セレブ系」(3 例) などである。以下、実例を示す。

- (12) a. 「ノキアでは、セレブ向けの高級携帯電話サービス「ヴァーチュ」の展開を今後も強化していくという。」(Yahoo! ブログ, 2008, Yahoo! ブログ) : m2
 b. 「インナーとスカートは黒で統一して、クール&ゴージャスにまとめれば、ブランドストリートに似合うセレブ感の溢れるコートスタイルが完成。」(Oggi, 2004, 一般) : m1
 c. 「愛されフェミニンデニム派 VS. セレブ系クールデニム派」(with, 2004, 一般) : m1

(12a) では、(m2 としての)「セレブ」を対象とした「携帯電話」が「高級」であることが実例から分かる。また (12b) や (12c) からは、ファッションにおいて (m1 としての)「セレブ」に近付くための在り方が実例から見出せる。

3.2.1.4 [セレブな+名詞] のパターン

これはいずれも、m3 の事例である。合計 22 例あり、例えば「セレブな人」(3 例)、「セレブな人生」(2 例) などがみられた。以下に、実例を示す。

- (13) a. 「コスメのいい悪いって、結局口コミが一番信頼できて、使ってみてどうか、大切ですね。美にひと倍うるさいセレブな人たちが愛用してるなら、それはもう、何だか良さげな感じいっぱいです。海外旅行のついでに、きれいの素が手に入るなら、こんないいことはなし。」(JJ, 2003, 一般) : m3
 b. 「ある会社のご子息で 6 大学出のエリートで一流企業に勤める、優しくて一緒にいてそこそこ楽しい、私にべた惚れの男性と結婚して、特に興味のないお父様の会社の後継ぎになる人生と(継ぐのは彼でなく私)、一生報われない妻子もちのろくでなしを思い続けながら自分のやりたい仕事をして一人でも生きていける経済力を身につけるセレブな人生。一般論的にはどちらがいいのか一目瞭然なんだけど、」(Yahoo! 知恵袋, 2005, 恋愛相

談、人間関係の悩み) : m3

例えば (13a) では、「美にひと一倍うるさい」という特徴が「セレブ」と呼称される人の属性であり、かつ、そういった人の「愛用」する「コスメ」に対して明確なプラス評価がなされていることが、「もう、何だか良さげな感じいっぱい」という表現から見出せる。

また (13b) では、「自分のやりたい仕事をして一人でも生きていける経済力を身につける」という人生の在り方が、「セレブ (な)」によって表されている。

3.2.2.0 『筑波ウェブコーパス』について

ここからは、『筑波ウェブコーパス』(略称は TWC) によって収集した実例²²⁾について考察していく。その前提として、このコーパスの概要について述べる。

TWC は、日本語のウェブサイトから収集した 11 億 3800 万語のデータによって構成されたコーパスである。URL の収集には、Yahoo! ウェブ検索 API²³⁾が利用されている。2012 年 1 月初旬から下旬にかけて計 500 万 URL が収集されたが、その後、重複した URL を削除した URL 総数は約 3 割減の約 350 万件になったようである。なお、NINJAL-LWP for TWC (略称は NLT) はこのコーパスのオンライン検索システムであり、NLB と同一のシステムが採用されている。本稿では、NLT を用いて、TWC における「セレブ」の実例を収集した。その総数は、2704 例であった。

3.2.2.1 「セレブ」におけるマイナスの評価性の発生について

1976 年から 2005 年の実例が格納された BCCWJ においては、「セレブ」が用いられる際のコンテキスト²⁴⁾において、「セレブ」によって表される対象(となる人など)にマイナスの評価性が付与された事例はみられなかった。

一方、その 7 年後である 2012 年 1 月に収集された実例が格納された TWC においては、「セレブ」が用いられる際のコンテキストにおいて、「セレブ」によって表される対象にマイナスの評価性が付与された事例²⁵⁾が複数存在している。これは、前述のとおり特筆すべき変化である。(なお、BCCWJ の時点でも、「セレブ」の意味の「大衆化」がみられることは、既に述べたとおりである。)

筆者自身の直観に基づくと、現代語「セレブ」の語義 1 から 3 は、いずれも本来、プラスの評価性を有する語義である。これらの語義において、マイナスの評価性は、それぞれの語義の中心的位置を占めるものではない。換言すれば、「セレブ」という呼称が与えられる対象に対して、マイナスの評価を与えるかどうかは、個人差があるといえる。とはいえ、近年の日本語

の使用実態として、「セレブ」の語義におけるマイナスの評価性が、徐々に前景化しつつあるという変化も、見逃せない事実である。

さて、靱山（2018: 38）は、意味を構成する要素の中には、より中心的な位置を占めるものと周辺に位置するものがあることを明らかにし、この中心性を判断する観点の1つとして「一般性」を挙げている。これは靱山によれば、「ある語の意味を構成する要素が、その語が表す対象の集合（カテゴリー）のどれだけの成員に当てはまるかという程度」である。「セレブ」におけるマイナスの評価性は、一般性が完全ではない意味特徴²⁶⁾であろう。しかも、そのマイナスの評価性は、ステレオタイプ²⁷⁾の一種であるといえる。但し、「セレブ」の現代語誌を考えるうえで、前述のとおりマイナスの評価性の発生は重要である。

NLTで収集した「セレブ」の実例の多くは、NLBで収集した「セレブ」の実例と極めて近似的な意味特徴を有するものであった。これを踏まえつつ、次節以降では、NLBで収集した実例とは異なる、すなわちマイナスの評価性を含む事例の主なものを示していく。

ところで、言語の意味変化の方向性として、価値の低下は一般的にみられるものである。例えば沖森他（2011: 85）では、ある語の評価性が転じる事例として、「乙」を挙げている。本来、〈邦楽で、低く静かな調子の意〉であった「乙」は、〈通常とは異なるさま〉を表すようになり、その後、江戸時代には〈奇妙だ〉というマイナスの評価性が加わるようになった。さらにその後、近代に至ると、〈変わっていて気がきいているさま〉というプラスの評価性が加わった、としている。また、沖森他（2011: 85）は、「意味の下落」の例として、「きみ」を挙げている。本来、〈天皇、またお仕えする主人〉という意味だったが、〈貴人を指す呼称〉となり、その後、〈同輩以下に対する二人称代名詞〉へと変化した、としている。

なお、小林（1993: 120）は、語の「意味の価値の変化」について、「意味の下落に対して上昇も考えられるところであるが、そのような例はなかなか見出しにくい」とし、その理由を、「敬語の待遇価値が、その語が広く用いられるとともに、下落する傾向が強くなる²⁸⁾（中略）の」と共通するものであろう」としている。「セレブ」も、こうした意味変化の過渡期にあると考えられる。

ところで、「百科事典的知識」について松本（2019: 153）は、「認知意味論においては、語の意味と、その指示対象に関する知識との間には明確な区別がないと考える」とし、「このような指示対象に関する知識は百科事典的知識（encyclopedic knowledge）と呼ばれる」としている。そして、「ここで「百科事典的」というのは、事物に関して誰でも知っているような一般的な知識を言う」としている。

この定義に基づき、本稿では「セレブ」の語義において、2種類の百科事典的知識が関与していると考えられる。1つ目は、〈豊かな財力があり、上流社会に身を置いて、華やかで優雅な生

活を送っている〉人に対する、〈憧れの感情〉である。これが、「セレブ」の語義1から3いずれにも内在するプラスの評価性に繋がる。(NLBで収集した実例ではいずれも、この百科事典的知識のみが関与しているといえる。)

一方、〈豊かな財力があり、上流社会に身を置いて、華やかで優雅な生活を送っている〉人に対する羨望が過剰になると、〈妬みの感情〉に繋がることもあり得る。これが2つ目の百科事典的知識であり、まさに「セレブ」の語義1から3に伴う可能性のあるマイナスの評価性の動機づけとなるものである。(次節で提示する、NLTで収集した実例には、この百科事典的知識が関与している。)そして、〈妬みの感情〉の発生及び増大に伴い、「セレブ」と呼ばれる人々に対して、様々なステレオタイプが生じる場合がある。(これについては、本稿第4節で検討する。)

なお、当然のことながら、今後の日本社会において、「セレブ」のマイナスの評価性がより顕在化するのか、あるいは「セレブ」の使用頻度そのものが低下していくのかは、現時点で予測できない。次節以降ではあくまで、現在の「セレブ」のマイナスの評価性の様相を客観的に分析し、記述するものである。

以下、使用頻度の高かった主なパターンについて取り上げ、本節での見解を実例に基づいて検証していく。

3.2.2.2 「セレブ+助詞」のパターン

「セレブ+助詞」のパターンの代表例は、[が]が128例、[に]が78例、[と]が40例であった。以下、主な実例を示す。

- (14) a. 「日本橋に「マンダリンオリエンタル」。2003年には六本木に「グランドハイアット」がそれぞれオープンしています。(中略) 今更、セレブという言葉も色あせてきましたが、まさに本家本元の世界のセレブが集うようなホテルなわけですね。まあ、日本にあるからサービスはどうでもいいってもんじゃないですから、やはり名門の名に恥じないサービスが求められます。」

(URL: <http://hotle.sblo.jp/category/475877-1.html>) : m1

- b. 「今の日本で勝ち組とかセレブと呼ばれる人たちは、株でもうけたり、お金でお金を生み出している人たちですね。昔だったらただの成金ですよ。一番いやしい部類の人たちです。それが今や、社会の価値のトップになっている。汗して働かないものに憧れ、働きたくないけれど、うまくやってお金をもうけ、楽して暮らしたいとか。この考えこそ、アメリカ流のお子様資本主義です。」

(URL: <http://www.magazine9.jp/interv/hiro/index2.html>) : m2

(14a) は、厳密に言えば「セレブ」と呼称される対象に対してマイナス評価を与えているわけではない。むしろ、「セレブという言葉も色あせてきましたが」という表現から、「セレブ」という語そのものの流行性が低下していると捉える人が現れていることが分かる。なお、「セレブ」は、既に示した三省堂編修所 (2004) を踏まえれば「流行語」であったといえる。一般論として、沖森他 (2011: 146) でも述べられているように、「流行語」は「寿命が短く、出入りも激しい」ものである。

また、(14b) では、「セレブ」と呼称される人に対するマイナスの評価性の付与が、点線の下線を施した箇所全体から見出せる。すなわち、〈豊かな財力〉があるものの、その〈財力〉を、株の運用をはじめとして、労働以外の楽な形で築いた人々に対して、「昔だったらただの成金」、「一番いやしい部類の人たち」と明確に否定している。

3.2.2.3 [動詞基本形+セレブ] のパターン

このパターンの内、最も頻度が高いのは「過ぎる+セレブ」というパターンであり、総数は662例である。しかしこれには、コーパスのデータに関する特殊な事例がある。この662例は全て、「イタすぎるセレブ」という句である。これは、そもそもウェブサイトにおいて「イタすぎるセレブ達」という見出しの特集記事が生まれ、それらの記事が全て「過ぎる+セレブ」のパターンとしてTWCに格納されていることによる。

なお、ここでの「イタすぎる」は、概略、〈ある人の言動や容姿が、極めて見るに堪えないものである。〉という意味である。その具体例として、例えば (15) のような例が挙げられる。

- (15) a. 「【イタすぎるセレブ達】年差なんと35歳！ 映画『グリーンマイル』のあの俳優、16歳の女の子と結婚しちゃった！」

(URL: <http://japan.techinsight.jp/2011/06/yokote2011062112120.html>) : m1

- b. 「【イタすぎるセレブ達】シングルに戻ったブラッドレイ・クーパー、今はママと二人きりで“同棲中”。「母のいない生活考えられない」」

(URL : http://japan.techinsight.jp/2011/05/26braune_cooper_mom.html) : m1

- c. 「【イタすぎるセレブ達】リアーナ、元会計士らを訴える。何十億円分ものツアー収益が闇に消えた…。」 (URL : <http://japan.techinsight.jp/2009/09/hatarakugonn-sinohararyoko-tikai.html>) : m1

いずれも、(語義1における)「セレブ」と呼称される人々の日々の言動の負の側面が、往々にして(主にゴシップ誌などのメディアによって、またその読者や視聴者によって)面白おかしく切り取られることを表す事例といえる。これらの事例においても、コンテキストのレベルにおいて、「セレブ」と呼称される人々に対して与えられるマイナスの評価性が見出せる。

3.2.2.4 [ナ形容詞+セレブ]のパターン

このパターンにおいて、「セレブ」に前接する形容動詞(ナ形容詞)²⁹⁾は22種類あった。そのうち、マイナスの評価性を有する形容動詞は、「妙な」、「場違いな」、「中途半端な」の3種類、それぞれ1例ずつである。以下、事例を示す。

- (16) a. 「「行きつけショップ」はパリの店がズラリ、「ついつい買ってしまうお気に入りアイテムたち」とハイブランドのバッグが並び、「家具はベルギーやパリからコンテナで輸送」…妙なセレブ感に鼻白んでしまう。」

(URL: <http://imashun-navi.seesaa.net/article/243032620.html>) : m1³⁰⁾

- b. 「それと同時に京葉線沿線にはオシャレスイーツの勘違いマダムをターゲットとした買い物施設がオープン、舞浜にはイクスピアリ、南船橋にはららぽーと東京ベイ、幕張メッセや副都心のある海浜幕張もやけに場違いなセレブタウンと化し独特の匂いを放っている。」

(URL : <http://tokyodeep.info/guide/chiba.html>) : m2

- c. 「歌手も女優活動も中途半端なセレブタレントの先輩格であるパリス・ヒルトンと同じ路線を突っ走っていく気もしないではないが、ここで父親を追い抜く活躍を見せてほしいと思うファンも多いはず。」

(URL : <http://japan.techinsight.jp/2011/07/kay1107181620.html>) : m1

いずれの例においても、〈豊かな財力のある人(々)〉の様々な言動に、マイナスの評価性が与えられていることが、前接する形容動詞からも、コンテキストからも、見出せる。なお、本稿(6)で示したように、パリス・ヒルトン氏は、日本において(語義1としての)「セレブ」が流行した時点での(真の)「セレブ」の代表例の一人であったといえるが、(16c)においては、同一人物に対してマイナス評価³¹⁾が与えられている。すなわち、「セレブ」と呼ばれる特定の個人に対しても、その評価が時代の流れとともに下がり得る可能性が示唆される。

なお、マイナスの評価性を有する形容動詞の数は、22種類中の3種類と決して多いわけではないが、プラスの評価性あるいは中立的な評価性を有する形容動詞が前接する事例の中に

も、コンテキストから、「セレブ」に対してマイナスの評価性が与えられていることが判断できる事例もある。例えば、(17) のようなケースである。

(17) a. 「ちなみに「お相手」ケイトさんは実はアメリカでは結構有名なセレブ専門のジャーナリストであるが、取材相手であった子持ち男性と関係を持ちおおいに批判を受けた。」

(URL : <http://japan.techinsight.jp/2011/10/kay-michael-lohan-kate-major-case.html>) : m1

b. 「高名な政治家や著名なセレブのなかにも未納者がいたということは、この制度の将来がいかに不安定なものであるかの証左であろう。」

(URL : <http://agora-web.jp/archives/1073989.html>)³²⁾ : m1

なお、[ナ形容詞＋セレブ] の頻度の合計は38例であったが、(17) と同種の事例は合計6例であった。

3.2.2.5 セレブを前項要素とする合成名詞のパターン

本稿3.2.1.3節で、NLBで収集した事例のうち、セレブを前項要素とする合成名詞のパターンについて、事例を挙げた。NLTで収集した事例においても、「セレブ気分」、「セレブ御用達」など、NLBと同様の合成名詞が複数みられる。しかし、例えば「セレブ気分」について、NLBではマイナスの評価性が与えられた事例は見つからなかったが、NLTにおいては計36例中、4例見つかった。例えば以下のような事例である。

(18) a. 「お話を聞いていると、百合さんの家庭にはセレブ気分が蔓延しているみたいです。」

このセレブ気分を一掃することが先決。これからの30年、40年は何が起こるかわかりません。夫より長生きする可能性の高い私たち女性が主導権をとって老後の戦略を立てるしかありません。」

(URL : <http://www.mitsui-fudosan.co.jp/lets/katsuyou/katsuyou07.html>) : m2

b. 「結局、彼らのやっていることは本物の高級を知らない人達が高級ごっこをしているに過ぎず、セレブ気分を味わいたい人達がそれに乗せられているだけだと思います。私にはレクサスのやり方は高級を履き違えてるようにしか見えません。自らは顧客の家に出向くこともせず、客を身なりや購入する車種で異なった対応をすることが心のこもったおもてなしといえるのでしょうか。」

(URL: <http://blog.livedoor.jp/bmwe30/archives/51805553.html>) : m2

また、(相対的に) マイナスの評価性を有する名詞を後項要素とするケースが、159種類中、「気取り」、「崇拜」、「殺し屋」、「狙い」、「目当て」の5種類³³⁾みられた。

同様の観点では、[名詞+セレブ] というパターンの実例において、全75種類の名詞のうち、マイナスの評価性を有する名詞は、「勘違い」、「腐れ」、「金欠」、「おのぼり」の4種類³⁴⁾みられた。

3.2.2.6 [セレブな+名詞] のパターン

最後に、[セレブな+名詞] のパターン、すなわち「セレブ」の語義3における実例について述べる。合計の頻度は243例である。このパターンにおいても、本稿3.2.1.4節で取り上げたNLBの事例と同様の事例が複数みられた。一方で、NLBと異なり、マイナスの評価性が与えられた事例が複数みられた。(なお、このパターンにおける[名詞]そのものがマイナスの評価性を伴うケースは見当たらなかった。) 以下、その主な実例を示す。

- (19) a. 「不動産収入と年金で合計すると月収50万を超えるそうです。50万あって「お金がない」というおばあさん…ある意味病気なのかもしれませんが…。親や息子が生きていた時代のプチセレブな生活を忘れられないようです。誰が説教しても自分がおかしいという認識はしないので、こういう人はもう放置に限ります。」

(URL: <http://oshiete.goo.ne.jp/qa/6147909.html>) : m3

- b. 「パパラッチやファンに追いかけられ、人気や名声が重くのしかかるセレブな生活を忌み嫌い、自宅に引きこもってドラッグに明け暮れる日々を送っていたそう。」

(URL: <http://japan.techinsight.jp/2012/01/yokote2012012609450.html>)³⁵⁾ : m3

- c. 「日曜日の昼間に若い娘のひとりランチよ、向こうのセレブな奥様方の囁き。実際には聞こえないそんな声を彼女は気にしている。」

(URL: <http://blog.livedoor.jp/sqwka/archives/2704807.html>) : m3

- d. 「『お受験』に夢中のセレブな妻・レイナ(木村佳乃)にはついていけず、窮屈な結婚生活をおくる、やり手社長・本宮功治(もとみや こうじ・35歳)に、CMや連続ドラマでのさわやかな印象で好感度急上昇中の平山浩行さん。」

(URL: <http://www.fujitv.co.jp/megami/topics/index01.html>)³⁶⁾ : m3

例えば、(19a)では、「(プチ)セレブな生活」が「忘れられない」という状況に対して、マイナスの評価性を与えている。(19b)では、(語義1における)「セレブ」と呼ばれる人の生活の負の側面が焦点化されている。(19c)では、実際には「セレブな奥様方」は言葉を発してい

るわけではないものの、事例に登場する「彼女」が、「セレブな奥様方」がきっとこのように自分自身を捉えているだろうと、いわばステレオタイプに基づいてマイナスに位置づけている。また (19d) では、「セレブな」生活を送る人が、その家族にとっては精神的な負担になり得るということが表されている。

4. 「セレブ」に潜むステレオタイプについて：[XなのにY] 構文の考察

本節では、Google 検索で収集した事例³⁷⁾を対象として、[XなのにY] 構文の検討から、「セレブ」に潜むステレオタイプについての考察を行う。

さて、[XなのにY] 構文が用いられた（「セレブ」以外の）事例を、以下に示す。

(20) a. 「雪国なのに夏は蒸し暑い！？」

(URL : <https://www.meas.or.jp/we-love-this-house/946/>)

b. 「「A型なのに不器用なんだ」血液型で仕事を振ってくる上司にイラ立つ女性」

(URL : <https://www.chiba-tv.com/plus/detail/20231086104>)

c. 「国産なのに低コスト！ とにかく安い！」

(URL : <https://tatami-ya.net/tatami/fine/price.php>)

[XなのにY] 構文は、「なのに」という逆接の表現を用いることにより、「X」と「Y」の意味的な対立を表す。例えば「引き戸なのに、押して開けてしまった。」(作例)のように、「X」に対する評価あるいは働きかけを、単に〈誤る〉というケースも存在する。一方で、この構文が使用される場合、(20a) から (20c) のように、往々にして、「X」に対する（科学的根拠や事実に基づかない）ステレオタイプを前提として、それに反する価値判断を行ったことを「Y」で表す、というケースがみられる。例えば、(20a) であれば、〈雪国ならば、夏も蒸し暑くない。〉、(20b) であれば〈A型ならば、器用である。〉、(20c) であれば〈国産の商品はコストが高い。〉といったステレオタイプが見出せる。

すなわち、[XなのにY] 構文の意味を（コンテキストも含めて）分析することにより、「X」に対するステレオタイプが炙り出せる可能性がある。

以上を踏まえ、Google 検索で収集した「セレブ (=X) なのにY」構文の主な事例を踏まえ、そこから見出せる「セレブ」に対するステレオタイプの概要を示す。

なお、Google で「セレブなのに」という文字列での検索を行い、結果として表示された冒頭15例を抽出し、以下に示す。（その際、[Y] が言語化されていない事例や、重複した事例

は除いた。)

以下、(21) に、[セレブなのに Y] 構文の実例及び個々の実例から見出せるステレオタイプの概略を示す。なお、「セレブ」に対するステレオタイプが明確にマイナス評価であると判断できる事例については、ステレオタイプの記述の後に「マイナス」という文言を付加する。

(21) [セレブ (=X) なのに Y] 構文の実例15例

実例	ステレオタイプの概略
a. 「セレブなのにお金を使わない人たち」 ³⁸⁾	〈セレブは、身分相応の（一定水準以上の）お金を使うものである。〉 ³⁹⁾
b. 「100均、ママチャリ、電車移動…超セレブなのに“質素”な生活を崩さない「菅野美穂」の完璧プライベート」 ⁴⁰⁾	〈セレブは、質素な生活ができないものである。〉：マイナス
c. 「セレブなのにゴミ屋敷!? 謎の超お金持ち芸人宅に潜入！」 ⁴¹⁾	〈セレブは、汚れない美しい邸宅に住んでいるものである。〉
d. 「有名セレブなのに、“古ぼけスニーカー”を履く理由ってナニ!? キレイな靴を履いている人と、使いこんで古ぼけた靴を履いている人。みなさんはどちらが好印象ですか? 「そんなの当然、前者でしょ」。きっとそういう人がほとんどかと。」 ⁴²⁾	〈セレブは、美しい靴を履くものである。〉
e. 「かなりのセレブなのにグクミンが北海道のドトール行ってたって話かなり推せる」 ⁴³⁾	〈セレブは、商品の価格が一定水準以上に高い、高級感のある飲食店に行くものである。〉
f. 「セレブなのにドッジ子気質 黒沢咲の天然エピソードに視聴者爆笑「壮絶過ぎる ww」「憎めないなあ ww」」 ⁴⁴⁾	〈セレブは、立ち居振る舞いが洗練されており、単純な失敗はしないものである。〉
g. 「お淳太さん、セレブなのに関西人気質で好き。」 ⁴⁵⁾	〈セレブは、関西人気質（例えば、他者と気軽に話したり、陽気であったりといった性格）ではないものである。〉：マイナス
h. 「セレブなのに貧乏なの?」 ⁴⁶⁾	〈セレブは、豊かな財力があるものである。〉
i. 「セレブなのにユニークなお客の J.F さん」 ⁴⁷⁾	〈セレブは、面白みに欠けるものである。〉：マイナス
j. 「セレブなのに気さくなスターさんと代々木でタイ料理」 ⁴⁸⁾	〈セレブは、気軽に接することのできないものである。〉：マイナス
k. 「絶大な人気を誇る SNS スター、エマ・チェンパレンをみなさんご存じ? セレブなのに飾らない人柄とユーモアのあるトーク、そして何より、難しいことはしてないのにとびきりおしゃれなファッションが今、注目を集めているんです！」 ⁴⁹⁾	〈セレブは、その立ち居振る舞いが自然体ではなく、自分を必要以上に良く見せようとするものである。〉：マイナス

l. 「スーパーセレブの人たちセレブなのに良い人だな」 ⁵⁰⁾	〈セレブは、人が悪いことが一般的である。〉：マイナス
m. 「超セレブなのに超過酷!? 江戸幕府將軍のモーニングルーティン (朝食編)」 ⁵¹⁾	〈セレブは、穏やかでゆとりのある生活を送るものである。〉
n. 「セレブなのにわき汗対策していないのか？」と心ない批判が寄せられた一方で、多くのファンは「暑い日に汗をかくのは当たり前」「汗ジミがあってもなくても素敵」とアシュリーを擁護。 ⁵²⁾	〈セレブは、衣服に汗じみができない対策をするなど、身なりに気を遣うものである。〉
o. 「デヴィ夫人ブレイクの理由は「セレブなのに一生懸命」 ⁵³⁾	〈セレブは、仕事などに対して懸命に取り組まないものである。〉：マイナス

(21) に挙げた例から分かるように、「セレブ」に対する様々なステレオタイプには、プラス評価のケースとマイナス評価のケースが混在しており、15例中、明確にマイナス評価だと判断できたのは計7例であった。

一方、それ以外の8例において、個々のコンテキストから、「セレブ」らしからぬ行動を取ることに対して、プラス評価が与えられていると判断できる事例も存在する。例えば (21e) では、「セレブ」らしからぬ行動を取った人に対するプラス評価が、「推せる」という語から見出せる。また、(21f) では、プラスに近い評価が「憎めない」という語から見出せる。これらの例からは、「セレブ」らしさに直接的なマイナス評価が与えられるわけではないものの、一般に「セレブ」と位置づけられる人が、「セレブ」らしからぬ行動を取ることに、好意的な見方がなされる場合があることが分かる。

5. おわりに

以上、本稿では外来語「セレブ」の意味や文法の諸相について、時代背景との関連も視野に入れつつ、共時的に考察した。その中で、「セレブ」の複数の語義を認定し、その相互関係を明らかにした。また、BCCWJとTWCという2種類のコーパスで収集した事例の観察を通して、「セレブ」という語の使用実態を詳細に捉え、かつ、「セレブ」の語義におけるマイナスの評価性の発生のメカニズムについて論じた。加えて、[セレブ (=X) なのにY] 構文の検討を通して、「セレブ」と呼称される対象への、人々のステレオタイプの多様性について明らかにした。

最後に、本稿に残された検討課題を大きく3つ挙げる。

1点目は、「セレブ」という語に伴う評価性に関する実態調査である。前述のとおり、マイナスの評価性の発生という点において、「セレブ」は変化の途上にある語であるといえる。そのため、「セレブ」という語に対して、あるいは「セレブ」と呼称される対象に対して人々が

どのような価値判断をしているのか、アンケートやインタビューによって経年的な調査を行うことができるのではないだろうか。

2点目は、「セレブ」と、その類義語との比較である。例えば「名士」、「スター」、「リッチ」、「ラグジュアリー」などの意味的・文法的特徴について考察し、本稿での考察結果と照らし合わせることで、「セレブ」の語誌的な特質をさらに詳細に捉えることができるのではないだろうか。

3点目は、商業活動における「セレブ」の使用実態に関する考察である。例えば「セレブ」という語が商品名の構成要素として用いられた代表例として、王子ネピア株式会社の「鼻セレブ」が挙げられる。この商品は、従来品から改名し、2004年に発売開始され、大ヒットしたが、その主な要因の一つとして、斬新なネーミングも挙げられよう。ちなみに、「セレブ」を構成要素とする商標は他にも、同じく王子ネピア株式会社のトイレトペーパー「おしりセレブ」をはじめ、入浴剤の「バスセレブ」（井藤漢方製薬株式会社）、トマトの「セレブママ」（徳寿工業株式会社）、バスマットの「ふわもこセレブ」（山崎産業株式会社）など、様々に存在する。（いずれも、生活必需品や野菜など、身近な商品でありながら、同類の他の商品に比して高い品質と適度な高級感があることを、消費者に伝えるためのネーミングであろうか。）そのほか、商標や広告コピーなどにおける「セレブ」の使用実態について調査することで、「セレブ」という語に、企業・サービスの提供者・生産者、そして消費者が何を求め、何を感じているのか、その一端が明らかになる可能性がある。

以上を踏まえつつ、今後も二面的（多面的）な評価性を有する語、あるいは評価性という点において変化の途上にある語を対象として、社会的・文化的背景も十分に考慮に入れつつ、多角的に分析し、精緻に記述していきたい。

謝辞

コピーライターの稲垣厚作氏（株式会社たきコーポレーション）との議論が、本稿執筆のきっかけとなりました。深く感謝申し上げます。

注

- 1) 本稿における「外来語」は、沖森他（2006: 75）の「16世紀以降に中国以外の外国語から借用された語」という定義に基づく。
- 2) なお、コーパスに基づく現代語誌のケーススタディとして、野田（2020: 118-123）を含めた、明治書院の季刊誌『日本語学』2020年夏号（vol. 39-2）における特集「コーパスによる語史と現代語誌」がある。
- 3) 片仮名表記に比して、例えば平仮名表記であれば柔らかい印象が、アルファベット表記であれば特別な（洗練された）、あるいはやや堅い印象があるのではないだろうか。但し、片仮名表記の使用頻度は圧倒的に

高く、(その影響もあって)そこに結び付いた意味的特徴は、平仮名表記やアルファベット表記の場合と通底するものであろう。

- 4) なお、日本で唯一の大型辞典である『日本国語大辞典』(小学館)には、「セレブ」は立項されていなかった。
- 5) ジャパンナレッジ Lib に収録されている『デジタル大辞泉』のデータを用いた。当該語釈の最終確認年月日は、2025年1月25日である。
- 6) ジャパンナレッジ Lib に収録されている『現代用語の基礎知識』2024年版のデータを用いた。当該語釈の最終確認年月日は、2025年1月25日である。
- 7) 本稿では「プロトタイプ的意味」について、靱山(2021: 69)における「ある言語のある語の複数の意味の中で、母語話者(の大半)にとって、最も基本的な意味であると直観的に感じられる意味」という規定に従う。
- 8) 後に本稿第3節で提示するコーパスの実例でも、〈有名人〉という意味のみで「セレブ」が用いられるケースはみられない。
- 9) ジャパンナレッジ Lib に収録されている『ランダムハウス英和大辞典』のデータを用いた。当該語釈の最終確認年月日は、2025年1月25日である。なお、この英和辞典での語義の配列は、原則として使用頻度順である。
- 10) なお(5)に示したように、英和辞典でも、英語 celebrity 及び celeb の語釈においてマイナスの評価性に関する言及はみられない。
- 11) <https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/> (最終確認年月日は、2025年1月25日である。)
- 12) <https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/column/%E7%AC%AC1%E5%9B%9E-%E3%82%BB%E3%83%AC%E3%83%96>
- 13) 三省堂編修所(2004)が用いている文言を、そのまま転載する。
- 14) あるいは、このケースの「セレブ」を「形容名詞」と呼ぶこともできる。
- 15) 本稿では「比喩」を広く、「ある語を、本来の意味とは異なる意味として用いるしくみ」と位置づける。
- 16) なお、〈存在〉から、〈その存在の属性〉へと拡張するメトニミーの類例として「オレンジ」が挙げられる。本来の、「スーパーでオレンジを2つ買った。」のような場合の語義は〈果物(柑橘の一種)〉である。一方、「あの人は、オレンジの洋服を着ている。」のような場合の語義は、〈オレンジという果物の色〉という属性である。そのため、前者から後者へと、メトニミーによって拡張していると位置づけられる。同じく、「素人」も類例である。本来の、「素人が口を挟むな。」のような場合の語義は、〈ある事柄に関する知識や経験が浅く、必要となる知識や技能も十分に有していない人。〉である。一方、「素人な発言で恐縮です。」のような場合の語義は、〈ある事柄に関する知識や経験が浅く、必要となる知識や技能も十分に有していないさま。〉という属性である。そのため、前者から後者へと、メトニミーによって拡張していると位置づけられる。
- 17) <https://nlb.ninjal.ac.jp/>
- 18) 本稿では「パターン」を、「あらゆるレベルの複合表現(合成語、句、節、文など)の形式的特徴、すなわち、それらの構成要素(形態素)がどのように配置されて複合表現を形成しているか、という側面」(野田2019: 68)と位置づける。
- 19) これ以降、NLBで抽出された実例を、「」で括って直接引用する。加えて、その実例の出典情報も、NLBでの検索結果として記載された文言を()で括って直接引用する。

- 20) これ以降、実例を示す際、考察対象語「セレブ」には実線の下線を施し、考察対象語の意味・文法に関連のある箇所には点線の下線を施すこととする。
- 21) この「の」は恐らく誤植であるが、そのまま引用する。
- 22) これ以降、NLTで抽出された実例を、「」で括って直接引用する。加えて、その実例の出典URLも、NLTでの検索結果として記載された情報を（）で括って直接引用する。なお、実例によっては、そのURLがリンク切れとなっているものもある。
- 23) APIとは、「あるソフトウェアの機能を別のソフトウェアから呼び出す仕組み」(https://www.ntt.com/business/services/rink/knowledge/archive_18.html)のことである。(左記URLの最終確認年月日は、2025年1月25日である。)
- 24) 本稿では、梶浦(2015: 97)を踏まえ、「コンテキスト」を「発話解釈の際、聞き手が用いるさまざまな情報」と位置づけたうえで、特に「言語的コンテキスト」と「百科事典的コンテキスト」について考察する。「言語的コンテキスト」とは、「先行する発話によって得られる情報」であり、「百科事典的コンテキスト」とは「世界のさまざまな事項に関する一般の知識から得られる情報」である。
- 25) 単純な比較ではあるが、例えば使用頻度の高い「セレブ+が」というパターンにおいて、NLBで収集した実例7例からはマイナスの評価性が付与された実例は見つからなかったが、NLTで収集した128例からは12例見つかった。
- 26) 例えば、「鳥」という語の意味を考えるうえで、「空を飛ぶ」という意味特徴は、全ての「鳥」に当てはまるわけではないという点で、一般性の程度が完全ではない。ただ、「鳥」の典型的事例には当てはまる特徴である。なお、意味分析において、一般性の程度が完全ではない特徴を考慮に入れることの意義についての詳細は、靱山(2018)を参照されたい。
- 27) 唐沢(2001: 108)は、「社会集団や社会的カテゴリー(性別・年齢・人種・職業など)に対して、その成員がもつ属性について誇張された信念を抱くことがある。これをステレオタイプとよぶ。」と説明している。本稿も、この定義に従う。
- 28) 日本語学において、こうした変化は「敬意通減の法則」と呼ばれている。詳細は、肥爪(2010)を参照されたい。
- 29) なおNLBで収集した実例においては、このパターンは合計3例のみであり、「おしゃれな」、「リッチな」、「ゴージャスな」が前接する事例が1つずつで、いずれの実例も「セレブ」と呼称される対象がプラスに評価されているものであった。
- 30) なおこの事例は、ダルビッシュ氏と離婚した紗栄子氏に関する言説であるため、語義1と判断した。
- 31) NLBでは、パリス・ヒルトン氏に対してマイナス評価が与えられている事例は見つからなかった。
- 32) この事例は、国民年金の未納者に関する記事である。
- 33) なお、NLBで収集した実例においては、全24種類(延べ頻度41例)中、マイナスの評価性を有する事例は1つもなかった。
- 34) なお、NLBで収集した実例においては、全9種類(延べ頻度19例)中、マイナスの評価性を有する事例は1つもなかった。
- 35) この事例は、俳優であるブラッド・ピットに関する記事である。
- 36) この事例は、2011年にフジテレビ系列で放送された「名前をなくした女神」の紹介記事である。
- 37) いずれの実例も、最終確認年月日は2025年1月27日である。
- 38) <https://komachi.yomiuri.co.jp/topics/id/554494/>

- 39) なお、(21a) の実例では、この後に以下のような言及がある。「私のお金持ちに抱くイメージは、やっぱり身分相応の贅沢な暮らしぶりです。そんな生活に憧れます。やろうと思えばそんな生活ができるのに全くしないなんて、私からは信じられません。」つまり、「セレブなのにお金を使わない人たち」に対してマイナスの評価を与えているわけである。
- 40) <https://dot.asahi.com/articles/-/202004?page=1>
- 41) <https://www.youtube.com/watch?app=desktop&v=z3zJk7-GSWQ&t=4s>
- 42) <https://safarilounge.jp/online/fashion/detail.php?id=10487&p=1>
- 43) https://www.threads.net/@hxxji._0/post/C_28xKBBU7h
- 44) <https://times.abema.tv/articles/-/10010827>
- 45) https://x.com/suzu_marumi/status/1796139082294182277
- 46) <https://ameblo.jp/taka-sensei/entry-12281395318.html>
- 47) <http://hmpiano.net/riwakino/2022/22.12.21%20J.F/newpage1.html>
- 48) https://www.instagram.com/t.nikoran/p/DBujh5HzzE3/?img_index=1
- 49) <https://www.vivi.tv/post354852/>
- 50) <https://x.com/ponke02/status/1873702567945126357>
- 51) <https://mag.japaaan.com/archives/138116>
- 52) <https://www.ellegirl.jp/celeb/a62484878/ashley-roberts-sweat-shaming-24-1003/>
- 53) https://www.news-postseven.com/archives/20180318_660753.html?DETAIL

引用文献

- 沖森卓也他 (2011) 『図解日本の語彙』：三省堂
- 小野正弘 (2018) 「語史・語誌」 日本語学会編 『日本語学大辞典』：東京堂出版
- 梶浦恭平 (2015) 「コンテクスト」 斎藤純男他編 『明解言語学辞典』：三省堂
- 唐沢穰 (2001) 「ステレオタイプ」 山本眞理子他編 (2001) 『社会的認知ハンドブック』：北大路書房
- 小林賢次 (1993) 「第4章 古代語の語彙・語彙史」 工藤浩他 『日本語要説』：ひつじ書房
- 三省堂編修所 (2004) 「10分でわかるカタカナ語 第1回セレブ」 (WORD-WISE WEB)
<https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/column/%E7%AC%AC1%E5%9B%9E-%E3%82%BB%E3%83%AC%E3%83%96>
- 砂川有里子 (2024) 『日本語コーパスの世界へようこそ—気になる言葉の使い方を調べてみよう!』：大修館書店
- 多門靖容 (2018) 「比喩」 日本語学会編 『日本語学大辞典』：東京堂出版
- 野田大志 (2019) 「使用パターンに基づく多義動詞の語義認定」 ブラシャント・バルデシ他編 『多義動詞分析の新展開と日本語教育への応用』：開拓社
- 野田大志 (2020) 「裏 (表・陰)」 『日本語学』 2020年夏号：明治書院
- 肥爪周二 (2010) 「第6章 待遇表現史」 沖森卓也編著 『日本語史概説』：朝倉書店
- 松本曜 (2019) 「認知意味論」 辻幸夫編集主幹 『認知言語学大事典』：朝倉書店
- 初山洋介 (2018) 「意味」 日本語学会編 『日本語学大辞典』：東京堂出版
- 初山洋介 (2021) 『[例解] 日本語の多義語研究 認知言語学の視点から』：大修館書店

Pd 錯体を開口部に導入した 新規 Open-Dawson 型ポリ酸塩の合成と構造

松 永 論

Abstract

Open-Dawson 型 K 塩 $K_{13}[\{K(H_2O)_4\}_2\{K(H_2O) \alpha, \alpha-Si_2W_{18}O_{66}\}] \cdot 21H_2O$ と Pd エチレンジアミン錯体 $[PdCl_2(en)]$ の反応により、open-Dawson 型ポリ酸の開口部に $[Pd(en)]^{2+}$ が導入された $K_{11}[K(H_2O) \{Pd(en)\}_2(\alpha, \alpha-Si_2W_{18}O_{66})] \cdot 15H_2O$ (**Pd-open-POM**) を合成した。TG/DTA、元素分析、 1H NMR、単結晶 X 線構造解析によって同定をおこない、open-Dawson 型ポリ酸塩の開口部に $[Pd(en)]^{2+}$ が 2 分子導入された構造であることを明らかにした。これは、配位子を有する錯体を導入した初めての open-Dawson 型ポリ酸塩であり、open-Dawson 型ポリ酸塩の新たな機能化手法となりうる。また、**Pd-open-POM** の開口角は 45.519° であり、既報の open-Dawson 型ポリ酸塩の中で最も狭い開口角を示すことが明らかとなった。

Keywords: Polyoxometalates/ Open-Dawson structural POM/ palladium complex/ Crystal structure

はじめに

分子性の酸化物クラスターであるポリ酸塩 (Polyoxometalates, POMs) は、強酸性、耐酸性、酸化還元特性など極めて多彩な物性を有しているため、触媒、材料科学、医薬など様々な観点から広く研究されている物質群である¹⁾。これまでに種々の構造のポリ酸塩が知られているが、近年 open-Dawson 型ポリ酸塩が新たなタイプのポリ酸塩として注目されている²⁾。古くから知られる Dawson 型ポリ酸塩は、2 つの Keggin 型ポリ酸塩三欠損種が 6 本の W-O-W 結合により連結した構造を有している (図 1 左)。一方、負電荷の大きいゲストアニオン XO_4^{4-} ($X = Si, Ge$) を内包する Keggin 型三欠損種は、ゲストアニオン同士の静電反発が大きいため通常の

Dawson 型ポリ酸塩にはなりづらく、電荷反発を避けるように 2 本の W-O-W 結合で連結した open-Dawson 型ポリ酸塩を形成する (図 1 右)³⁾。Open-Dawson 型ポリ酸塩は、通常の Dawson 型ポリ酸塩が中央で口を開いた様な構造を有しており、その開口部には様々な金属イオンを複数導入することが可能である。これまでに Ni^{2+} ,^{4), 13)} Cu^{2+} ,^{5), 6), 7)} Fe^{3+} ,^{8), 9)} V^{5+} ,⁸⁾ Co^{2+} ,^{6), 10)-13)} Mn^{2+} ,¹¹⁾ Al^{3+} ,¹⁴⁾ Ga^{3+} ,¹⁴⁾ In^{3+} ,²⁰⁾ Ag^+ ,¹⁵⁾ Zn^{2+} ,¹⁶⁾ および各種ランタノイドイオン¹⁷⁾などを導入した open-Dawson 型ポリ酸塩が報告されている。複数個の金属イオンを導入可能なため、多核金属中心による協奏的な触媒反応や基底高スピンを有する単分子磁石などの新たなプラットフォームとして期待されている。実際、開口部に 5 個の Ni^{2+} イオンを導入した open-Dawson 型ポリ酸塩が、水の酸化分解触媒として効果的に機能することが報告されている⁴⁾。

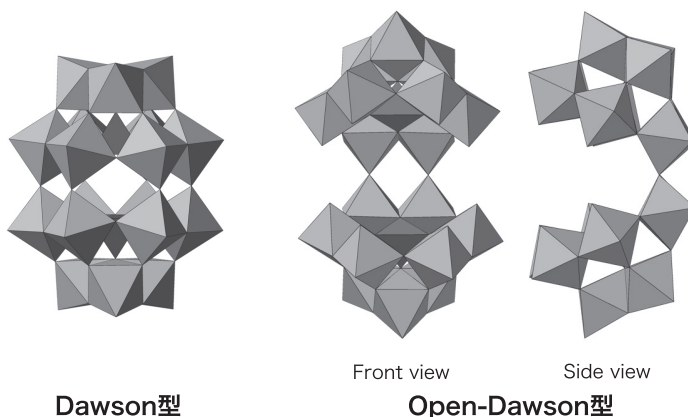


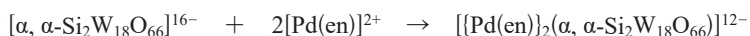
図1 従来の Dawson 型構造 (左) と open-Dawson 型構造 (右)

これまで報告されている open-Dawson 型ポリ酸塩は、配位子を持たない金属イオンが酸素原子を介した単核および多核酸化物クラスターとして開口部に導入されていた。配位子を有する金属錯体の形状で開口部に導入することができれば、open-Dawson 型ポリ酸へ機能性を付与するための新たな手法となりうる。本研究では、貴金属錯体である $[\text{Pd}(\text{en})](\text{en} = \text{ethylenediamine})$ を開口部に導入した新たな open-Dawson 型ポリ酸塩 $\text{K}_{11}[\text{K}(\text{H}_2\text{O})\{\text{Pd}(\text{en})\}_2(\alpha, \alpha\text{-Si}_2\text{W}_{18}\text{O}_{66})] \cdot 15\text{H}_2\text{O}$ (**Pd-open-POM**) の合成、および結晶構造解析に成功したので報告する。

合成と同定

Pd-open-POM は、開口部に対カチオンのみを含む open-Dawson 型 K 塩 $\text{K}_{13}[\{\text{K}(\text{H}_2\text{O})_4\}_2\{\text{K}(\text{H}_2\text{O})\alpha, \alpha\text{-Si}_2\text{W}_{18}\text{O}_{66}\}] \cdot 21\text{H}_2\text{O}$ ²⁾ と $[\text{Pd}(\text{en})\text{Cl}_2]$ ¹⁸⁾ から合成した。 $[\text{Pd}(\text{en})\text{Cl}_2]$ と硝酸銀を反応させること

で、Pd に配位している塩化物イオン Cl^- を塩化銀 AgCl として反応系から除去し、 $[\text{Pd}(\text{en})(\text{H}_2\text{O})_2]^{2+}$ とした。これにより Pd への配位を容易にした後、open-Dawson 型 K 塩 $\text{K}_{13}[[\text{K}(\text{H}_2\text{O})_4]_2[\text{K}(\text{H}_2\text{O}) \alpha, \alpha\text{-Si}_2\text{W}_{18}\text{O}_{66}]] \cdot 21\text{H}_2\text{O}$ を反応させ、目的とする **Pd-open-POM** を得ることに成功した。反応式を以下に示す（ただし、 K^+ と H_2O は簡単のため省略している）。



TG 測定では、室温から 500°C までに 5.35% の重量減が観測された。これは 16 個分の結晶水に相当する。また CHN 元素分析の結果も、16 個の H_2O 分子を含む組成とよく一致していた。後述する開口部の K^+ に配位した H_2O 分子を考慮し、組成は $\text{K}_{11}[\text{K}(\text{H}_2\text{O})[\text{Pd}(\text{en})]_2(\alpha, \alpha\text{-Si}_2\text{W}_{18}\text{O}_{66})] \cdot 15\text{H}_2\text{O}$ と決定した。

結晶構造

Pd-open-POM の単結晶 X 線構造解析の結果を図 2 に示す。2 つの Keggin 型ポリ酸塩三欠損種が 2 本の W-O-W 結合で連結した open-Dawson 型構造を形成しており、その開口部に 2 つの Pd エチレンジアミン錯体 $[\text{Pd}(\text{en})]^{2+}$ が導入された構造であった。Pd エチレンジアミン錯体の塩化物イオンが配位していた部位に open-Dawson 型構造の開口部酸素原子が配位し、Pd の配位環境は平面四配位構造であった。また、図 2 では省略しているが、開口部には水和した K^+ イオンも 1 個存在していることもわかった。BVS 計算¹⁹⁾の結果から、Pd は 2+、Pd に配位している酸素原子は O^{2-} であることを確認した。

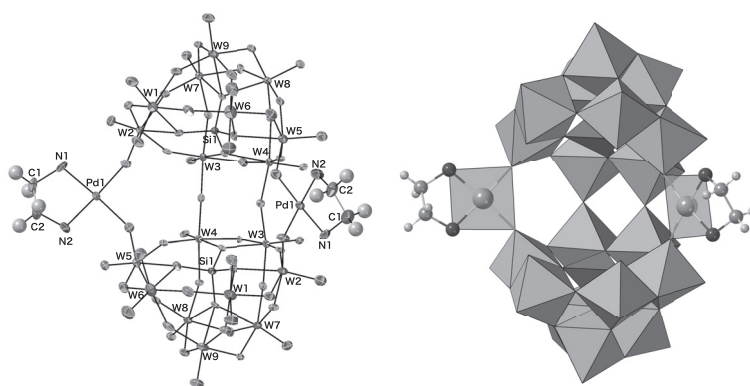


図 2 **Pd-open-POM** のアニオン部位の構造（左）と多面体モデル表示（右）
（ただし、 K^+ イオンおよび結晶水は省略している）

Open-Dawson 型ポリ酸塩は、開口部の開き具合を開口角として定義でき、導入された金属

クラスターイオンに依存して開口角が柔軟に変化する。既報の多核クラスターイオンを導入した open-Dawson 型ポリ酸塩の開口角は、 Al_4 (54.274°),¹⁴⁾ Ga_4 (56.110°),¹⁴⁾ In_{10} -dimer (64.363° , 65.139°),²⁰⁾ Co_6 (60.044°),¹³⁾ Zn_6 -dimer (59.313°),¹⁶⁾ Ni_5 (60.313°),⁴⁾ Cu_5 (61.665°)⁵⁾ などであり、導入されたクラスターイオンのイオン半径および核数が大きいほど開口角が広い傾向が見られる。今回の **Pd-open-POM** は 45.519° と非常に狭い開口角を有していた (図3左)。これは多核クラスターが導入されていない原料の open-Dawson 型 K 塩 (47.378°)²⁾ と比較してもさらに狭く、これまで報告された open-Dawson 型ポリ酸塩の中で最も開口角が狭いことが明らかとなった。

また、**Pd-open-POM** の酸素原子と対イオンの K^+ イオンとの間に多くの相互作用が存在していた。特に、open-Dawson 型ポリ酸塩の蝶番部分に相当する $\{\text{WO}_6\}$ の酸素原子 (O14) と K^+ イオン (K3) との間に相互作用があることが確認された (図3右)。これは多くの open-Dawson 型ポリ酸塩でも観測される相互作用である。既報の open-Dawson ポリ酸塩の大部分は K 塩として単離されているが、これは対イオンに Na^+ を用いると open-Dawson 型ではなく多核クラスターイオンを2つの Keggin 型三欠損種で挟み込んだ、いわゆるサンドイッチ型ポリ酸塩の生成が支配的となるためである。上記の酸素原子と K^+ イオンの相互作用が open-Dawson 型骨格を安定化している重要な要因であると考えられ、今回合成した **Pd-open-POM** でもこの相互作用の存在を確認することができた。これ以外にも、ポリ酸骨格の酸素原子、結晶水、 K^+ イオンとの間で多数の相互作用が存在し、結晶構造中で三次元ネットワーク構造を形成していた。

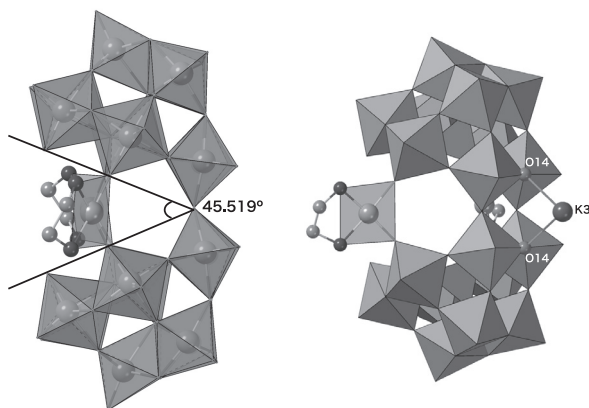


図3 **Pd-open-POM** の開口角と open-Dawson ポリ酸塩と K^+ イオンとの相互作用

Pd-open-POM には2つの Pd(en) 部位が導入されているが、Pd 原子間距離は $9.765 \text{ \AA}$ と離れ

ており、分子内 Pd-Pd 相互作用は観測されなかった。一方で、隣接分子の Pd 原子との距離は 4.278 Å と比較的短いことが分かった (図 4)。これは分子間に Pd-Pd 相互作用があると言えるほど短い距離ではないが、Cl₂ や Br₂ を用いて Pd を酸化することでハロゲン架橋による連結が可能な程度の距離であり、更なる分子修飾が可能な構造であるといえる。

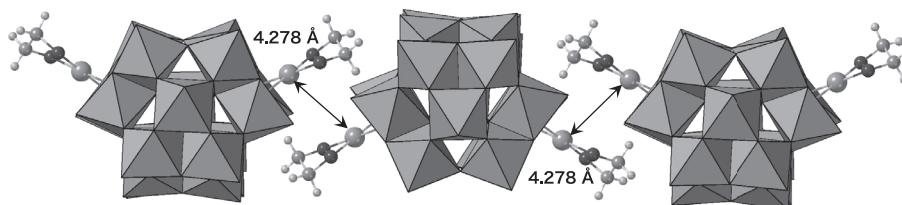


図 4 Pd-open-POM の分子配列

¹H NMR in D₂O

D₂O 中での **Pd-open-POM** の ¹H NMR 測定の結果、Pd(en) 部位のエチレンの水素原子に基づくピークが 2.50 ppm に二重線で観測された。Pd(en) 部位の NH₂ の水素原子は、プロトン交換により観測されなかった。いずれも、分子構造から予想される結果と矛盾せず、また副生成物のピークも観測されないことから、純度良く合成できていることがわかった。

まとめ

Open-Dawson 型ポリ酸の開口部に [Pd(en)]²⁺ を 2 分子導入した **Pd-open-POM** の合成法を確立し、単結晶 X 線構造解析により分子構造を決定することに成功した。これまでに報告された open-Dawson 型ポリ酸塩は、酸素原子で架橋された単核および多核金属イオンが開口部に導入されていたが、**Pd-open-POM** は配位子を有する金属錯体の形状で開口部へ導入された初めての例となった。Pd のような貴金属錯体は、様々な反応に対し高い触媒活性を持つことから、本手法によってポリ酸塩と複合化することで新たな機能の開拓が期待される。

Experimental Section

Materials

Open-Dawson 型 K 塩および [PdCl₂(en)] は既報^{2), 18)}に従い合成した。硝酸銀 (関東化学)、重

水（関東化学）、エタノール（関東化学）、ジエチルエーテル（関東化学）は、精製せずに購入したものをそのまま用いた。

Synthesis

$\text{K}_{11}[\text{K}(\text{H}_2\text{O})\{\text{Pd}(\text{en})\}_2(\alpha, \alpha\text{-Si}_2\text{W}_{18}\text{O}_{66})] \cdot 15\text{H}_2\text{O}$ (**Pd-open-POM**) の合成

$[\text{PdCl}_2(\text{en})]$ 9.0mg (0.038 mmol) を純水 15mL に溶解し、そこへ硝酸銀 AgNO_3 13.0mg (0.0765 mmol) を加えた。室温にて 10 分間攪拌し、析出した塩化銀 AgCl の白色粉末をろ過により取り除いた。この溶液へ、open-Dawson 型 K 塩 $\text{K}_{13}[\{\text{K}(\text{H}_2\text{O})_4\}_2\{\text{K}(\text{H}_2\text{O})\}_\alpha, \alpha\text{-Si}_2\text{W}_{18}\text{O}_{66}] \cdot 21\text{H}_2\text{O}$ 100mg (0.0179 mmol) を純水 15mL に溶解した溶液を滴下し、室温にて 10 分間攪拌した。この反応溶液に、貧溶媒としてエタノールを蒸気拡散することで、3 日後淡黄色針状結晶が生成した。この結晶をろ取し、エタノール 10mL、ジエチルエーテル 10mL で洗浄した後、真空乾燥することで **Pd-open-POM** 79.7mg (0.0145 mmol) を得た（収率 80.8%）。

$\text{C}_4\text{H}_{48}\text{K}_{12}\text{N}_4\text{O}_{82}\text{Pd}_2\text{Si}_2\text{W}_{18}$ or $\text{K}_{11}[\text{K}(\text{H}_2\text{O})\{\text{Pd}(\text{en})\}_2(\alpha, \alpha\text{-Si}_2\text{W}_{18}\text{O}_{66})] \cdot 15\text{H}_2\text{O}$: calcd. H 0.88, C 0.87, N 1.02%; found: H 0.66, C 1.10, N 1.19%. TG/DTA under atmospheric conditions: a weight loss of 5.35% was observed at below 500 °C; calcd. 5.23% for $x = 16$ in $\text{K}_{11}[\text{K}(\text{H}_2\text{O})\{\text{Pd}(\text{en})\}_2(\alpha, \alpha\text{-Si}_2\text{W}_{18}\text{O}_{66})] \cdot (x-1)\text{H}_2\text{O}$. ^1H NMR (21.7 °C, D_2O , DSS, ppm): $\delta = 2.50$ (4H, d, $J = 40$ Hz, $-\text{CH}_2-$).

References

- 1) C. L. Hill, Ed. *Chem. Rev.* **1998**, 98, 1–387.
- 2) N. Laronze, J. Marrot, G. Hervé, *Chem. Commun.* **2003**, 2360–2361.
- 3) F.-Q. Zhang, W. Guan, L.-K. Yan, Y.-T. Zhang, M.-T. Xu, E. Hayfron-Benjamin, Z.-M. Su, *Inorg. Chem.* **2011**, 50, 4967–4977.
- 4) G. Zhu, E. N. Glass, C. Zhao, H. Lv, J. W. Vickers, Y. V. Geletii, D. G. Musaev, J. Song, C. L. Hill, *Dalton Trans.* **2012**, 41, 13043–13049.
- 5) L.-H. Bi, U. Kortz, *Inorg. Chem.* **2004**, 43, 7961–7962.
- 6) N. Leclerc-Laronze, J. Marrot, G. Hervé, *Inorg. Chem.* **2005**, 44, 1275–1281.
- 7) S. Nellutla, J. van Tol, N. S. Dalal, L.-H. Bi, U. Kortz, B. Keita, L. Nadjo, G. A. Khitrov, A. G. Marshall, *Inorg. Chem.* **2005**, 44, 9795–9806.
- 8) N. Leclerc-Laronze, J. Marrot, G. Hervé, *C. R. Chim.* **2006**, 9, 1467–1471.
- 9) S. Matsunaga, E. Miyamae, Y. Inoue, K. Nomiya, *Inorganics* **2016**, 4, 15.
- 10) C.-Y. Sun, S.-X. Liu, C.-L. Wang, L.-H. Xie, C.-D. Zhang, B. Gao, Z.-M. Su, H.-Q. Jia, *J. Mol. Struct.* **2006**, 785, 170–175.
- 11) C.-L. Wang, S.-X. Liu, C.-Y. Sun, L.-H. Xie, Y.-H. Ren, D.-D. Liang, H.-Y. Cheng, *J. Mol. Struct.* **2007**, 841, 88–95.
- 12) G. Zhu, Y. V. Geletii, J. Song, C. Zhao, E. N. Glass, J. Bacsá, C. L. Hill, *Inorg. Chem.* **2013**, 52, 1018–1024.

- 13) J. Guo, D. Zhang, L. Chen, Y. Song, D. Zhu, Y. Xu, *Dalton Trans.* **2013**, 42, 8454–8459.
- 14) S. Matsunaga, Y. Inoue, T. Otaki, H. Osada K. Nomiya, *Z. Anorg. Allg. Chem.* **2016**, 642, 539–545.
- 15) K. Yonesato, H. Ito, H. Itakura, D. Yokogawa, T. Kikuchi, N. Mizuno, K. Yamaguchi, K. Suzuki, *J. Am. Chem. Soc.* **2019**, 141, 19550–19554.
- 16) G. Zhu, Y. V. Geletii, C. Zhao, D. G. Musaev, J. Song, Craig L. Hill, *Dalton Trans.* **2012**, 41, 9908–9913.
- 17) L. Ni, B. Spingler, S. Weyeneth, G. R. Patzke, *Eur. J. Inorg. Chem.* **2013**, 1681–1692.
- 18) *Handbook of Chemistry: Applied Chemistry*, 4th ed. 17, **1990**, p.159.
- 19) I. D. Brown, *J. Appl. Crystallogr.* **1996**, 29, 479–480.
- 20) S. Matsunaga, T. Otaki, Y. Inoue, K. Mihara, K. Nomiya, *Inorganics* **2016**, 4, 16.

『ピーターラビットのおはなし』新訳を読む

山 口 均

要旨

The Tale of Peter Rabbit の邦訳は長らく石井桃子訳が定番となっていたが、2022年に川上未映子による新訳が出版された。石井訳は Frederick Warne 社の市販本第5刷（1903）によるが、川上訳は、出版100年を記念して割愛されていた何枚かの挿絵を復元して組み直された新版（2002）を元としている（テキスト自体は同一だが、頁組に「ずれ」がある）。本稿では、『ピーターラビットのおはなし』の textual history を詳細に辿った上で、主にこの「ずれ」に焦点をあてながら両訳を比較することで、作者ポターがこの短い物語に秘めた様々な「仕掛け」を明らかにする。

キーワード：英語圏児童文学、絵本、ピーターラビット

Peter Rabbit の textual history

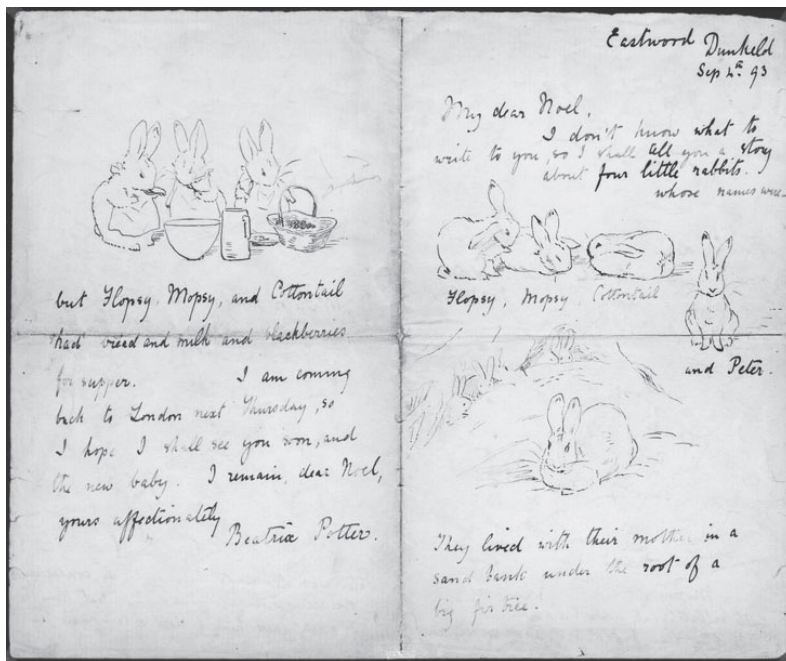
Beatrix Potter（1866–1943）の *The Tale of Peter Rabbit*（『ピーターラビットのおはなし』）は、邦訳としては長らく石井桃子訳が「定番」となっていたが（福音館書店、1971年初版）、2022年に川上未映子による新訳が出版された（早川書房）。ただ、石井訳と川上訳では元となった原本が異なっている。*The Tale of Peter Rabbit* はやや錯綜した textual history を持っているため、ここでそれを整理しておきたい。

- (1) 絵手紙（1893）
- (2) 私家版（1901）

(3) 市販本 (1902)

これが一番簡単な textual history なのだが、実はそれぞれがもう少し複雑な “history” を持っている、それを辿ってみる。

(1) 絵手紙は『ピーターラビットのおはなし』の「起源」と呼ぶべきもので、ポターの家庭教師だった女性 (Annie Moore) の5歳になる長男 (Noel) が病気になったので、励ますために送ったものである。ストーリーは2枚の紙の裏表に書かれているが、とても面白い工夫がある。



すぐに見て取れるように、第1葉表面にはストーリーの冒頭部分が右側に書かれ、左側にはストーリーの最後の部分書かれるという不思議な構成になっている。左右は逆になるが、裏面も同様な構成になっている。これは何だろうか。

まず、この1葉を縦に「山折り」にする。第2葉も同じ構成になっているので、やはり山折りにしてこの2葉を入れ込むと、一冊の「中綴じ絵本」が出来上がることになり、頁めくりをするとストーリーが順に展開していくことになるのである。ポターの仕掛けだったが、印刷製本で「面付け」と呼ばれる工程で、ポターが印刷について知識があったことが分かる。

(2) ポターはノエルの弟妹にも絵手紙を送っているが、母親のアニー・ムーアはいずれも丁寧に保管していて、後日ポターに返却した。ポターはそれを元に絵本 *The Tale of Peter Rabbit* を作成して、いくつかの出版社と出版交渉を重ねたがうまくいかず、1901年に「私家版」としてまずは250部を作成した。全体は白黒印刷だが、母親ウサギが寝込んだピーターに煎じ薬を飲ませる口絵だけは現行のものと同一カラー印刷だった。私家版は幸い好評で、ポターは追加でさらに200部を印刷することになる。

私家版はIowa大学の電子図書館で読むことができる (<https://digital.lib.uiowa.edu/>)。まず、次の二点を指摘しておきたい。追いかけられたピーターが茂みの中で怖々とうずくまっている挿絵には、マザーグースの“Three Blind Mice”に触れる一節が付されていたこと、そして靴とジャケットをなくしたピーターが巣穴に戻ったのを見て母親ウサギが不審がる挿絵に続いて、彼女が寡婦でありタバコ作りで何とか生計を立てていることが語られる（身につまされる）6頁（テキスト、挿絵それぞれ3頁）があったことだが、このことは後述したい。

(3) その後出版に興味を示したのはFrederick Warne社だったが、二つ条件を付けた。一つは挿絵をカラーで描き直すこと、挿絵の数を減らして物語を少しだけ短くすることだった。

結局、以下の8枚が削られた。



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧

①は物語の冒頭一枚で、ポターはこの挿絵を残したかったはずだが、仕方がない。この挿

絵の意味・意図については後述する。②は、「もう片方のくつもぬげてしまいました」という短いテキストが付けられた一葉だが、これについても後述する。③は、靴が両方とも脱げてしまった場面で、「二足歩行」から本来の「四つ足動物」へ戻る、という意味はあったと思う。④は、ピーターがキャベツ畑に迷い込む場面で、これは割愛できると思う。⑤⑥⑦は、先述したように母親ウサギが生計を立てるのに苦労していることの説明で、物語展開としてはピーターが靴とジャケットをなくしてしまったことへの落胆の説明になっているのだが、結果的にこの挿絵とテキスト合わせて6頁の削除は「ほんわかとした」物語の雰囲気醸成することになったと思う。⑧は、具合が悪くなったピーターにカモミールの煎じ薬を飲ませる場面なので、展開上必須とも言える一枚なのだが、これは私家版同様に別途口絵として載せられている。

(4) 幸い市販本の売れ行きは好調だったので、以後ポターは *The Tailor of Gloucester* (『グロースターの仕立て屋』1903)、*The Tale of Squirrel Nutkin* (『りすのナトキンのおはなし』1903)、*The Tale of Benjamin Bunny* (『ベンジャミンバニーのおはなし』1904) など、次々に Warne 社から出し続けることになる。しかし、この「商業的成功」がその後100年にわたって『ピーターラビットのおはなし』の textual history に大きな影響を与えることとなる。

Warne 社としては、単体での売れ行きよりもシリーズものとしての売れ行きに力を入れたかったのだろう、*The Tale of Peter Rabbit* の見返し(表紙と裏表紙と本体との間、“endpaper”)にシリーズのキャラクターの絵を広告として載せることを考えた。これは福音館書店版がそれを踏襲しているので確認できる。しかし、そのために印刷製本過程の都合で本体の頁数を削減する必要に迫られた。

結局、1903年の第5刷以降では、次の4葉が削られることになる。



⑨



⑩



⑪



⑫

このうち、⑨は「いわくつき」とも言える一枚で、これについても後述する。⑩は表紙絵になっている。⑪は、逃げ回ったピーターが扉を見つけた場面だが、これも割愛しても不自然に

はならない。⑫は、やっとのことで元の巣穴に戻る場面で、意味があるとも言えるのでこれも後述する。

ただ、挿絵の削除に伴って、テキスト自体の変更はないものの頁配置で影響を受けることになる。例えば、⑩の挿絵には“*But Peter, who was very naughty, ran straight away to Mr. McGregor’s garden,*”というテキストが付けられ、頁の最後が“.”ではなく“;”で終わるという私家版を引き継ぐ「仕掛け」があったのだが、第5刷以降では次の頁のテキストと一緒に“*But Peter, who was very naughty, ran straight away to Mr. McGregor’s garden, and squeezed under the gate!*”と普通の文章になっている。この「仕掛け」のことも後述としたい。

そして、1903年に改訂されたこの版が以後100年間にわたって *The Tale of Peter Rabbit* の「定本」となる。1971年の石井桃子訳も当然これに従っている。

(5) 最後の textual history となる。2002年、つまり市販本 *The Tale of Peter Rabbit* 出版100年を記念して、版元の Frederick Warne 社から、先述した造本上の理由で割愛されていた4枚の挿絵を復元し、なおかつポターが準備したものの実際は一度も使われることがなかった2枚を追加した「新版」が出された。2022年の川上未映子訳はこちらに従っている。



⑬



⑭

⑬と⑭については、石井訳と川上訳との比較検討の過程で詳述したい。

以上、*The Tale of Peter Rabbit* の textual history をなるべく丁寧に辿ってみた。

なお、ここで指摘しておきたいのが「判型」のことである。『ピーターラビットのおはなし』は絵本としてはかなり小型の造りになっている。出版社の書籍登録情報によると、大きさは次の通り（縦×横）。

Frederick Warne 社版

14.45×11.28cm

福音館書店版	14.6×11cm
早川書房版	14.4×11cm

これは表紙の寸法なので、本体はもう少し小さい。Warne 社版を測ってみると、13.7×10.3cm である。ちなみに私家版（初刷）は、13.3×10.2cm なので、どの版もこのサイズをほぼ踏襲していることがわかる。

このような「小型」サイズにしたのは、ポターが、読者である子供の手に収まるサイズを希望したため、と言われている。それもあるだろうが、今回「起源の絵手紙」を見ていて気付いたのは、その大きさである。折りたたむと「中綴じ絵本」になる仕掛けについては先述したが、元のサイズは20.3×24.4cm である（A4用紙の大きさに近い）。textual history の冒頭に掲載した写真の折り跡から判断すると、ムーア家では、ポターの意図通りにまず縦に半分に折り、さらに横にも半分に折って保管していたようだ。すると大きさは10.15×12.2cm となる。これを書籍風に縦横を回転させると、ほぼ上述の私家版以降のサイズとなるのである。ポターの「起源」へのこだわりが見てとれると思うがどうだろう。

新訳を読む

以上、いささか長めの前置きとなったが、川上未映子による新訳を石井桃子訳と比較検討するには、二人が元とした原本が異なることを正確に把握しておく必要がある。

最初に、*The Tale of Peter Rabbit* という書名自体の訳を考えてみたい。二人とも「ピーターラビットのおはなし」としていて、日本では一般的にこう呼ばれている。それでいいのだが、“tale” という単語である。「おはなし」には“story” も対応する。よく指摘されるのが、“tail” の地口である。まだ文字の読めない幼児の読者は読み聞かせでこの「おはなし」に出会うことになるが、表紙絵のピーターを見ながらだと、まずは“the tail of Peter Rabbit” と聞き取るのが自然かもしれない。それはそれとして、“tale” と “story”、母語話者でないと「語感」は難しいが、一般的には“tale” は「story より堅い語」（『ジーニアス英和大辞典』大修館書店）だと思われる。そうすると、本当は「おはなし」ではなく「物語」とした方が母語話者の語感により近いのかもしれない。*The Tale of Genji* 『源氏物語』に倣えば、『ピーターラビット物語』となろう。実はポターも、絵手紙の時点では“a story about four little rabbits” と書いていて、私家版、つまり書籍にする時点で“The Tale” と変えている。この時点でポターは、旅に出た英雄が苦難を乗り越えて帰還するいわゆる「英雄伝説」という原型を漠然と考えていた可能性もあると思われるが（ジェームズ・キャンベル『千の顔を持つ英雄』によれば「召喚・越境・試練・逃

走・帰還・復活」という原型パターン)、ここでは指摘のみに留めておく。

まずは最初のページを考えてみたい。原文テキストは、“Once upon a time there were four little Rabbits, and their names were—Flopsy, Mopsy, Cotton-tail, and Peter.”と始まる。“Once upon a time there”だが、石井訳では「あるところに」、新訳では「むかし、あるところに」とされている。言うまでもなく、これは昔話の典型的な語り出しで、「昔々ある所に」とされることも多い。それを考えると、特に石井訳は少し「控えた」言い方にしてある。これは石井が、*The Tale of Peter Rabbit* が近現代的な創作であって、昔話というジャンルに括られるという受け止められ方を避けたかったからではないだろうか。しかし、作者ポターが敢えてこの表現で物語を始めたのには意味があったと思われる。

近現代的な創作で“once upon a time”が使われる場合は、何らかの「含み」を持たせることが多い。A. A. Milne の *Winnie-the-Pooh* (『クマのプーさん』1926) は、父親が6歳になる息子のクリストファー・ロビンに物語を読み聞かせるという設定になっているが、語りの冒頭は次のとおりである。“Once upon a time, a very long time ago now, about last Friday, Winnie-the-Pooh lived in a forest all by himself under the name of Sanders.”この作品にも石井桃子訳があり、こうなっている。「むかし、むかし、大むかし、この前の金曜日ころのことなんだがね、クマのプーさんは、森のなかで、ただひとり、サンダースという名のもとに住んでいましたとき。」

指摘するまでもないだろうが、ミルンの文章は「笑い」を目的としている。“Once upon a time, a very long time ago now”「昔も昔、大昔」と定型的な語り口から始めておいて、“about last Friday”と「落とす」のである。訳に反映させるとしたら、「むかし、むかし、大むかし、ま、と言っても先週の金曜日くらいのことだけだね」とでもなるだろうか。

この例のように、近現代的な創作での“once upon a time”は何らかの仕掛けを用意していて、ポターの場合も例外ではないと思われる。そうすると、この *The Tale of Peter Rabbit* 冒頭もひとまずは「昔々、ある所に」と訳しておくのがよいと思われる。川上訳はぎりぎりそれを伝えている。なお、この「仕掛け」については後述としたい。

最初の頁については、冒頭の4匹の子ウサギの名前“Flopsy, Mopsy, Cotton-tail, and Peter”の文字配置は川上訳が原著を踏襲している。原著では4匹の名前が通常の欧文表記とは異なる「右から左、そして右」というタイポグラフィーになっているが(平仮名の「く」の形)、石井訳では横書きで「左から右」へと普通に表記されている。実はこの文字配置の意味は私家版の挿絵①を見ると理解できる。先に示したように、私家版の当該頁の挿絵は現行のモミの木の下での巣穴の家族ではなく4匹が睦みあっている絵柄なのだが、4匹の配置が順に「右から左、そして右」になっていて、ここはいわゆる“concrete poetry”になっていたのである。ただしこの

挿絵は以後使用されることはなかったので、現在では「一瞬の異化効果」にとどまっているのはやむを得ない。

この頁についてはもう一つ考えてみたいことがある。原文は “They lived with their Mother in a sand-bank, underneath the root of a very big fir-tree.” で、石井訳は「^こうさぎたちは ^{おかあさん}といっしょに ^{おお}大きな^きもみの木のしたの ^{すな}の^{あな}のなかにすんでいました。」川上訳は「^こうさぎたちは^{おかあさん}といっしょに、^{おお}大きな^きもみの木のしたにある、^{すな}の^{あな}のなかにすんでいました。」となっている（振り仮名等、原文ママ）。一つ気付くのは、川上訳では漢字表記が少しだけ多い、ということである。漢字未習得の幼児が自分で読む場合は平仮名表記がふさわしいが、読み聞かせをする場合には平仮名ばかりだと瞬間的な把握がやや遅れを取ることになる。幸い、「振り仮名」という日本語ならではの特殊表記を利用すれば、なんとか両者に対応できることになる。

表記法の問題を離れて、テキスト自体の訳に目を向けると、“a very big fir-tree” は石井訳が「^{おお}大きな^きもみの木」、川上訳が「^{おお}大きな^きもみの木」となっていてほとんど違いはない。ただ、稿者としてはここは「とっても大きなもみの木」としてほしかった。この箇所、絵手紙では “They lived with their mother in a sand bank, underneath the root of a big fir tree.”（小文字表記ハイフン等、原文ママ）となっていたのが、私家版の段階で “the root of a very big fir-tree” と “very” が加えられ市販本に続いている。ここには、それなりにポターの意図があると思う。「大きな木の下のの巣穴」という表現には「安心感」のような効果があると思うが、それを「とっても大きな木」と一層強調したのではないだろうか。

これは指摘だけにしておきたい。もっと考えたいことがある。石井訳では「^きもみの木」と「もみ」に傍点が付けられている。樅は日本でも自生しているが、松や桜に比べればそれほど目にする機会はないのかもしれない。石井が傍点をつけたのは、そのあたりに理由があるのだろう。ただ、それはそれとして、ポターはなぜ “fir-tree” を選んだのだろうか。先述したように「大きな木の下のの巣穴」は、象徴分析的に考えれば「父性と母性」と捉えることもできよう。そのためには「直立した巨木」が選ばれることになるだろう。「樅」「檜」「oak tree」はどうだろう。アンデルセンに樹齢365年という樅の木の物語があるし、実はポターも後年 “The Fairy in the Oak” 「樅の木の妖精」という短い物語を書いている（1911年頃）。

The Tale of Peter Rabbit はおそらく児童文学として、もっともアダプテーションが豊富な作品だと思われる。『ピーターラビット』は物語が短くて展開も単純な分だけ受け入れられやすいのだろう。その中に、より幼児向けに再話したもので（www.readthetale.com/popular-bedtime-stories/the-tale-of-peter-rabbit）、次のようになっているものがある（強調は引用者）。“Once upon a time, in a cozy little burrow under the roots of a big oak tree, there lived a naughty young rabbit named

Peter.”実を言うと、元のテキストの冒頭部分で“a sand-bank”もイメージがつかみにくい語で、石井訳は「すなのあな」川上訳は「すなの^{あな}穴」とされているが、一般的には「砂州」であろう。それでこの再話では、もっと普通の用語と思われる“burrow”とされている。それ以上に、“fir”が“oak”へと（大胆に）変えられている。若い読者にとっては“oak”の方がより身近だということによろう。

それでは、作者ポターはなぜここで“fir”を選んだのだろうか。時に指摘されるのが、同音である“fir”と“fur”の地口である。ただ、“tale”“tail”に比べると、説明としては少し弱いかもしれない。この頁の挿絵を見ると、木は先述したような「直立する巨木」であり「ふさふさ」というイメージと結びつかないのではないだろうか。ここで「起源」に立ち返りたい。ポターが絵手紙を送ったのはムーア家の長男「ノエル君」だった。“Noel Christian Moore”、当時5歳、誕生は1887年12月24日である。言うまでもなく“noel”はクリスマスの別名で、クリスマス前後に生まれた子供に男女ともよく付けられる名前である。「もみの木」、もちろん「クリスマスツリー」である。これは、ポターがノエル君に向けた励ましのメッセージだったのではないだろうか。

マグレガーおばさん

「新訳を読む」、やっとな次の頁となる。ここは textual history の面で「いわくつき」の頁であり、原本の異なる石井訳と川上訳での違いがもっとも大きい頁である。



⑮



⑯



⑰

⑮は私家版の当該頁の挿絵、⑯はそれに彩色してポターが当初 Frederick Warne 社に提示したもの、⑰は⑯の雰囲気や難色を示した Warne 社の要求に応じて書き直されたものである。そして、この⑰も先述したように1903年の市販本第5刷以降は削除され、「復活」するのは2002年になってからだった。（なお、Warne 社は2013年に The Pop Art Edition という特別版を出していて、この挿絵は⑯を使っている。Gallimard 社から同年出されたフランス語訳も⑯になっている。）

この挿絵一枚のあるなしは物語の展開にかなり影響を与えていると思われる。絵手紙でも母親ウサギは子供たちに“you may go into the field or down the lane but don't go into Mr McGregor's garden.”（原文ママ）と諭しているが、その「禁止」の理由は最後まで語られず、「父親不在」のことも話題にはならない。絵手紙を絵本とするにあたって、私家版の時点で挿絵⑮とともに“Your Father had an accident there; he was put in a pie by Mrs. McGregor.”との一文が加えられることになった。そして前述したように1903年以降は100年にわたって一文は残しながら挿絵一葉は削られたままとなった。

この頁、石井訳は「あるあさ おかあさんが いいました。「さあ おまえたち、野はらか 森^{もり}のみちであそんでおいで。でも、おひやくしょうのマグレガーさんとこの はたけにだけはいっちゃいけませんよ。おまえたちの おとうさんは、あそこで じこにあって、マグレガーさんのおくさんに にくのパイにされてしまったんです」とされている。当然「1頁」である。これはこれで十分「衝撃的」な内容と言えるかもしれない。

川上訳はこうなっている。

「さあさあ、わたしのかわいい子どもたち」ある朝^{あさ}、おかあさんはいいました。「野はらと森^{もり}のみちであそんでおいで。でもマグレガーおじさんの 畑^{はたけ}にだけは、いかにないように」

「あなたたちのおとうさんは、とんだ目^めにあって、マグレガーおばさんに、にくのパイにされたんです」

「マグレガーおじさんの 畑^{はたけ}にだけは、いかにないように」という言い聞かせは、「頁めくり」という絵本特有の仕掛けによって一層衝撃的に「おとうさんの運命」が読者に示されることになる。

細かいことだが、石井訳・川上訳に微妙な差がある。“Mr. McGregor” “Mrs. McGregor” は、石井訳では「マグレガーさん」「マグレガーさんのおくさん」となっているが、川上訳では「マグレガーおじさん」「マグレガーおばさん」とされていて、ウサギ一家との「距離」が若干近くなっていると思われるがどうだろう。実は、これは物語全体の読みにかかわることなので、あらためて問題にしたい。

なお、私家版は挿絵が白黒印刷だったので、テキスト頁と同じ版下で印刷できたようだが、市販本は挿絵がカラーになったので、テキストとは別途印刷する必要があった。一枚の紙の裏表に別々の挿絵を印刷して、それを裁断・製本することになる。私家版は、全ての頁が左にテキスト、右が挿絵となっているが、市販本では一枚の挿絵の裏面にはかならず次の挿絵がくる

ことになり、そのためテキスト・挿絵の配置が交互に変わることになり、結果的に一冊の絵本として単調さが避けられリズム感のようなものが生まれることとなった。

母親ウサギが買い物に出かける次の頁は、挿絵について指摘しておかなければいけないことがある。ここで母親ウサギは、前頁のピーターとお揃いの「青い服」から「赤いケープと頭巾」に着替えている。これは、Ruth K. MacDonaldが指摘するように“Little Red Riding-Hood”（赤頭巾）へのアリュージョンであると思われる（*Beatrix Potter* 32）。ポターは早くから、例えば Walter Crane の挿絵などに親しみ、後年のこととなるが1912年には“Little Red Riding-Hood”の翻訳も手掛けている。

ここでポターが多分幼児を含む読者がすぐに反応するであろう「赤頭巾」を登場させた意味・意図はこれまで語られたことがないと思われるので、私見を述べておきたい。よく知られているように、ペロー童話では赤頭巾は狼に食べられて悲劇的に終わり、グリム童話では猟師に助けられて終わる。ペローに従うポター版は、狼に食べられたことが暗示的に語られてから“*And this is the end of Little Riding Hood.*”と終わることになる。そうすると、読み聞かせに耳を傾けるなり、自分で読むにしろ、読者である子供たちは挿絵のように赤頭巾の出で立ちをして森へ入っていく母親ウサギを待ち構えている「運命」を想像することになるのではないかと。そう、「昔話」の通りに物語が展開するならば、ピーター一家は父親に続いて母親まで失うことになるという、とても悲しい展開となる。もちろん、これはポターの仕掛けであって、母親ウサギは何事もなく戻ってくることになり、読者の心配は杞憂に終わることになる。（物語を転倒させる「読み」となるが、「お父さんがパイにされた」という母親ウサギの話も果たして本当だろうか。それは母親の話に出てくるのみで、実は語り手も物語中の他の誰も言及していない。「新視点」の問題提起としておきたい。）

次の頁は、妹ウサギたちが黒いちごを摘む場面だが、この頁のポターの工夫は残念ながら石井訳でも川上訳でも反映されていない。原文はこうなっている。“*Flopsy, Mopsy, and Cottontail, who were good little bunnies, went down the lane to gather blackberries;*”、つまり頁の最後が“.”ではなく“;”で終わっている。セミコロンは、内容的に関連した二つの文章を繋げる時に使われる。当然読者の関心は、母親ウサギの言い聞かせを上で聞いている“good little bunnies”ではないピーターに向かい、頁めくりで“very naughty”と語られることになる。冒険譚の始まりである。セミコロンは日本語表記では対応する記号がないので、工夫が難しいとも言える。

この「頁めくり」への働きかけはポターのお気に入り工夫だったので、*The Tale of Peter Rabbit* ではここを含めて6回使われている。早速次の頁では、“*But Peter, who was very naughty, ran straight away to Mr. McGregor’s garden,*”とここでは“.”ではなく“;”で終わっている。先ほど

と違い、視点が変わらず連続的な行動記述となっているからだが、次頁で“*And squeezed under the gate!*”と、これも読者の「期待」に込めている。ただ、この箇所は前述した「挿絵の復活」と関わっていて、やや複雑になっている。川上訳の原著では、ピーターがいそいそとマグレガーおじさんの庭に向かう挿絵⑩が挟まれていて、訳は「なんとマグレガーおじさんの畑^{はたけ}めがけてまっしぐら、」と終わり、次の頁で木戸の下を潜り抜ける場面になるので工夫（面白さ）が生きているが、石井訳の原著は木戸の下を潜り抜ける場面だけにテキストがまとめて付けられているので、ごく普通の展開になっているのはやむを得ない。

この「技法」は次の頁でも使われ、“*First he ate some lettuces and some French beans; and then he ate some radishes;*”となっていて、ここではセミコロンが二度使われている。「レタスとさいいんげんを食べ」「それからのはつかだいこんを食べ」の次はいったい何を食べるのかと読者の期待（想像）は膨らむが、実際は“*And then, feeling rather sick, he went to look for some parsley.*”と「葉草」を探すはめになる。ここの頁めくりが効果を上げていると思う。

さて、物語は「試練・逃走」へと展開することになる。マグレガーおじさんに見つかったピーターが逃げ回る場面で、幼い読者には相当な恐怖心を与える場面であろう。ここでマグレガーおじさんが振り回すのは“*a rake*”なのだが、これが石井訳では「れーき」とされ、川上訳では「くわ」とされている。もちろんごく普通の農具であり、「レーキ」と呼ばれることが多い。挿絵も明らかに「レーキ」である。レーキの特徴はポターの挿絵に見られるように、柄の先に鋭く短い鉄の爪が何本も取り付けられていることで、これが一層の恐怖心を掻き立てることになる。「鋤」でまず頭に浮かぶのは一枚刃の農具だと思うので、「くわ」という訳語は少し違うのではないかと、というのが率直な感想である。ただ、では「レーキ」が誰でも想起できる農具かと言えばそれはそれで難しいところで、川上未映子が敢えて「くわ」を選んだのは平易を目指したからだろうか。

次の頁に進みたい。ここは、『ピーターラビットのおはなし』研究の中でも、多分一度も語られたことがない視点だと思う。それが、石井訳と川上訳の違いに関わるのである。

あらためて確認しておくが、この「逃げる途中で靴が脱げてしまう」場面だが、石井訳と川上訳では原本が異なり、石井訳は1葉の挿絵とテキスト、川上訳は2葉の挿絵にそれぞれテキストとなっていたのである。ここの原文を示す。“*Peter was most dreadfully frightened; he rushed all over the garden, for he had forgotten the way back to the gate. He lost one of his shoes among the cabbages, and the other shoe amongst the potatoes.*”二つ目の文の石井訳は「かたほうのくつは ぎやべつばたけへおとしてしまい、かたほうは じゃがいもばたけで なくしてしまいました。」とされていて、追いかけられたピーターの単なる慌てぶりの描写になっているが、原

テキストがこうなっているのでこれ以上の工夫のしようがなかった。

それに対して、川上訳の原テキストは、“Peter was most dreadfully frightened; he rushed all over the garden, for he had forgotten the way back to the gate. He lost one of his shoes among the cabbages,”と、先に分析した“,”で頁を終わらせる技法を使っている。川上訳は「しかも、ああ、かたほうのくつをキャベツ畑^{ばたけ}でおっことし、」となる。先述した「頁めくり」による「物語展開の先送り」とでも呼ぶべき工夫である。ここで考えてみたい。自分で読むにせよ、読み聞かせてもらうにせよ、この「かたほうのくつをおっことす」という展開で子供たちは「慌てて逃げる途中で片方の靴が脱げてしまう」お話に思いいたるはずである。

もちろん、シンデレラ物語である。ポターがペロー童話に親しんでいたことは赤頭巾へのこだわりで分かるが、特にシンデレラは一番のお気に入り、1895年作と推定されるスケッチ画では「ウサギたちが引くカボチャの馬車」が描かれていて、早くからこの物語に強い関心を持っていたことがわかるし、ペロー童話を二倍の長さに翻案した「ポター版シンデレラ」も書いている。しかし、「えっ、ピーターはシンデレラなの？」という子供たちの物語展開への期待は、頁めくりをすると「もうかたほうも、じゃがいも畑^{ばたけ}でなくしてしまった。」という頁で「肩透かし」となる。ポターの仕掛けた「ユーモア」であると思われる。このことも少なくとも日本の読者にとっては2022年の新訳でしか味わうことができなかったのである。

逃亡譚

四つ足に戻ったピーターの「逃亡譚」は続く。ここでは、どうしても考えなければならないことが二つある。一つは「仮定法過去完了」という語法である。“... I think he might have got away altogether if he had not unfortunately run into a gooseberry net, and got caught by the large buttons on his jacket.”この部分、石井訳は「うまくやれば きつとにげだせたらうと、わたしはおもいます。でも うんわるく、すぐりの木^きに かけてある あみにとびこんで、うわぎのぼたんを あみにひっかけてしまいました。」、川上訳は「うまくいけばそのままにげられたと思うのですが、運^{うん}のわるいことに、すぐりの木^きにかけてあるあみにつっこんで、うわぎの大きなボタン^{おお}をひっかけてしまいました。」となっている。すぐに見て取れるように、両訳とも条件節の内容を直接法で訳してある。

敢えて「仮定法過去完了」をそのまま日本語に反映させるなら、「ピーターはちゃんと逃げおおせることができたはずだったでしょうに、もし、上着のボタンが網にひっかかりさえしていなければね」とでもなるだろうか。もちろん、石井桃子も川上未映子もそれは承知で、仮定法過去完了という日本語にない語法をそのまま日本語にすると、表現が重くなることを避けた

のだと思われる。ただ、一般的には条件節・帰結節の順で語られることが多いと思われる文章を、帰結節・条件節の順として、しかも私家版では“... I think he might have got away altogether”で頁を終わらせ、頁めくりで“If he had not unfortunately run into a gooseberry net, and got caught by the large buttons on his jacket.”と条件節を語るというポターの工夫もあったので、ここはもう少し何とかしたかった気もする。

実は、ここではもう一つ考えねばならないことがある。それは、“I think”の“I”である。『ピーターラビットのおはなし』は、それまでいわゆる「三人称視点」で語られてきていたのだが、ここにきて突如「私」なる一人称が登場するのである。この「私」は誰なのだろうか。「私」はもう一度顔を出す。物語の最後、やっとのことで巣穴に逃げ帰ったピーターについて、“I am sorry to say that Peter was not very well during the evening.”という一文が語られるのである。

絵手紙はこう始まっていた。“My dear Noel, I don't know what to write to you, so I shall tell you about a story about four little rabbits...”この“I”は、言うまでもなく、得意の「おはなし」で病児を励まそうとする Beatrix Potter という個人である。絵手紙にも“I think he might have got away altogether...”という表現はあり、これもポターその人である。手紙の最後では“I am coming back to London next Thursday, so I hope I will see you soon, and the new baby...”と冒頭からの“I”が地続きのままになっている（ちなみに、“the new baby”は1893年7月に生まれたムーア家の第5子の Norah のこと）。

しかし、特定の人物に宛てられた手紙ではない自立した物語の中の“I”は当然「作者」ではないが、*The Tale of Peter Rabbit* の場合は、必ずしも物語論や語り手論という深い森に立ち入る必要はないと思う。一般的に、この物語を読んだり聞いたりする読者・聞き手は、漠然とながら物語の展開を知悉した「私」という語り手を背後に想起しているのではないだろうか。そうすると、ここでは、そういう「私」がたまたま前景化されたのだと思われる。

では、この部分を石井桃子と川上未映子はどう訳しているだろうか。石井訳「ですから、うまくやれば きっとにげだせたらうと、わたしはおもいます。」、川上訳は「うまくいけばそのままにげられたと思うのですが、^{おも}運^{うん}のわるいことに、すぐりの木^きにかけてあるあみにつこんで、うわぎの^{おお}大きなボタンをひっかけてしまいました。」とされている。石井訳では「わたし」が訳され、川上訳では「思うのですが」と、主語を明示しないことが可能な日本語の特性を活かしてやや曖昧に訳している。「わたしは思うのですが」とする重さを避けたのだろう。川上未映子自身が小説家であり、「語り」には慎重さが求められることを熟知していることもあろう。

一つ指摘しておきたいことがある。それは、童話絵本の「読み聞かせ」という読書体験である。まだ文字が読めず読み聞かせをしてもらう聞き手からすれば、読み手は物語の展開を知悉

した「全能の」存在である。逆に、読み聞かせをする方の「私」は、作者でも語り手でもなく、実際に声に抑揚をつけて朗読する自分自身であり、読み聞かせに長けた朗読者なら、先ほどの箇所と言えば“I think”は「お母さんはこう思うのよね（お父さんはこう思うんだ）」と、自身を前景化させることもできるのである。

次の「ふるい」から間髪を逃げる場面は、ここも頁を“,”で終えるという例の工夫がされていて、頁めくりをするともう一度仮定法過去完了が使われている。“And rushed into the toolshed, and jumped into a can. It would have been a beautiful thing to hide in, if it had not had so much water in it.”石井訳は「^{みず}水がいっぱいはいっていなかったら、すばらしいかくれしょだったのですけれどねえ。」、川上訳は「^{みず}たっぷりの水さえはいっていなければ、さいこうのかくれしょになったのだけれども。」で、ここも条件節・帰結節の順で訳されていて、厳密に言えば原文テキストの面白さを反映できていないとも言える。

その後、ピーターは「ねずみのおばさん」「^{しろ}白ねこ」（川上訳）に出会ったりしながら、新訳で復活した挿絵⑭で、不気味な鯀の音からこわごわと身をひそめる場面となる。

ここであらためて私家版に触れておきたい。私家版ではこの挿絵のテキストは“Peter scuttered underneath the bushes. Then some one began to sing ‘Three blind mice, three blind mice!’ It sounded disagreeable to Peter; it made him feel as though his own tail were to be cut off; his fur stood on end.”と続いていた。もちろんマザーグースの“Three Blind Mice”である。原詩は次のとおりである。“Three blind mice. Three blind mice. See how they run. See how they run. They all ran after the farmer’s wife, Who cut off their tails with a carving knife, Did you ever see such a sight in your life, As three blind mice?”この箇所を市販本の時点で削除したのが、ポターの意図なのか、それともWarne社の意向だったのかはわからない。ただ、結果的にここが削除されたのは、特に日本人の『ピーターラビットのおはなし』の受容にとってはよかったのかもしれない。「自分のしっぽも切り落とされる気がして、体中の毛が逆立ちました」は、マザーグースの「残酷さ」に免疫の少ない日本人には、少しだけ「怖すぎる」とも言えるからである。それ以上に、“Three Blind Mice”をどう日本語にするのが難しい。ポターは、1922年になって8編の童謡に挿絵をつけた *Cecily Parsley’s Nursery Rhymes* という最後のシリーズ本をWarne社から出しているが、そこに“Three Blind Mice”が入っている。福音館書店の「ピーターラビットの絵本」シリーズは最後の数冊は訳者が代わっていて、『セシリ・パセリのわらべうた』（1993）は『ぐりとぐら』で知られる中川李枝子が訳しているが、そこでは冒頭部分は「三びきのねずみ 三びきのねずみ、めは みえないが ほら はしる！」とされている。川上版もあり、こちらは全体を

引いておく。「おめめの みえない 3びきの ねずみ ほら みて はしる! のうかの おくさんを おいかけて そしたら おくさん ほうちょう ふりあげて みんなの しっぽを ちょんぎった いままで ぜったい みたことないでしょ こんな おめめの みえない ねずみたち!」特に川上訳は、訳語の選択で工夫(苦労)が見て取れるのではないだろうか。

さて、逃亡譚・冒険譚もそろそろ終わりに近づくことになる。図⑫の挿絵は新訳にのみあるもので、前述したように1903年の第5刷から100年間割愛されていたものが2002年に復活したものである。川上訳は「ピーターはふりむきもせず、^{はし}走りに^{はし}走って、^{おお}大きな^きもみの^{いえ}木の^き家^{いえ}まで、かえりつきました。」とテキストが付けられている。なんとも安堵する場面であり、これが石井訳とは違って独立した頁になっている意味は大きいと思う。ピーターが「巢穴」に入り込むとする絵柄は「胎内帰り」のように解釈できると思うがどうだろう。

微細な訳の相違になるが、息も切れ切れで帰ってきたピーターの姿を見て、母親ウサギは“...she wondered what he had done with his clothes. It was the second little jacket and pair of shoes that Peter had lost in a fortnight!”と訝しがる。後半部分の石井訳は「ピーターったら、この2しゅうかんのうちに、うわぎを2まいと、くつを2そくも なくしてきたのです!」と語り手の言葉とし、川上訳は「この2しゅうかんに、うわぎとくつをなくして、また!」と母親ウサギの言葉としている。どちらがよいのか難しいところだが、川上が実作者でもあることが表れていると思える。もちろん、この部分はポターのユーモアで、この逃亡譚・冒険譚は実は日常的な一コマだったという仕掛けである。

この「日常性」という雰囲気は、物語の「最後の仕掛け」へと繋がることになる。逃げ回ったからではなく、多分食べすぎのためにおなかの調子が悪くなったピーターは母親ウサギの煎じ薬を飲む羽目になる。なお、原文テキストの“...made some chamomile tea”は、石井訳では「かみつれをせんじて」、川上訳では「カモミールのお茶をつくって」となっている。「かみつれ」は今あまり馴染みのない言葉だろうが、もともとカモミールのオランダ語“kamille”が転訛したものである。ここで両訳を比べると、石井訳の方がポターの意図をよく伝えていると思われる。現在の感覚からすると「カモミールのお茶をつくって」はハーブティーを淹れているように聞こえるが、もちろんこれは「苦い煎じ薬」である。そうすると、たとえ「かみつれ」がすぐに分からなくても石井訳の方が作者の意図、物語の展開をよく伝えていると思われるがどうだろう。ただ、二人とも“some”を訳していない。この“some”は、挿絵の薬缶の大きさからして「たっぷり」という意味だと思う。作り置きをして、また飲む必要があるのである。

最後の仕掛け

最後の「仕掛け」を考えてみる。



⑱



⑲

言うまでもなく、これが『ピーターラビットのおはなし』の最後の挿絵の順番であり、絵手紙・私家版もそうになっている。⑲の川上訳は「いっぽう、フロプシーとモプシーとカトンテールは、パンをミルクにひたしたのと、黒いちごを夜ごはんにいただきました。」とされている。石井訳の「ばんごはん」が「夜ごはん」と現代風に呼ばれていることを除けば、両訳にほとんど差異はない。ところが、この挿絵の順は⑱⑲ではなく、⑲⑱とした方が、物語の展開として「自然」だと考える読者も多いのである。母親ウサギの言い聞かせをちゃんと聞いた“good little bunnies”は美味しいご飯を食べることができたけれど、“very naughty”なピーターは煎じ薬を飲む羽目になりました、という教訓話的な展開である。

ここで、石井訳と川上訳の最後の相違を指摘しておきたい。「おはなし」は、最後に“THE END”とされて終わるが、石井訳は「おわり」とされて挿絵⑲のテキスト部分の末尾に書かれているが、2002年の新版に従う川上訳はそうはなっていない。挿絵⑲とテキストまでを読み終えると、当然頁めくりをする。そうすると、次の頁にはただ大きな文字で“THE END”とのみ書かれている（川上訳は「おしまい」）。教訓話的な展開を期待していた読者は、唐突に「おしまい」を告げられることになる。「えっ、これでおしまいなの？」ということになろうか。

ポターはそういう展開にしていない。つまり『ピーターラビットのおはなし』は「教訓話」などではなく、とあるウサギ一家の何気ない「日常」を語ったものだったのである。ピーターにしても、体調が回復すればまたマグレガーおじさんの庭に「遊び」に行くことになる。1904年に続編として書かれた *The Tale of Benjamin Bunny* 『ベンジャミンバニーのおはなし』はまさしくそういう「おはなし」だった。ここで「おはなし」の最初に戻る。この物語が“Once upon a time”と始められていたことは先述した通りである。この始まりに対応する終わりは言

うまでもなく “And they lived happily ever after.” であり、ウサギ一家は「いつまでも幸せに暮らしました」と予定調和的に終わることになる。これがポターの仕掛けだった。そしてこの予定調和的な「やさしさ」こそが『ピーターラビットのおはなし』が長く読み続けられてきた原動力だったのではないだろうか。

以上、*The Tale of Peter Rabbit* の textual history を綿密に辿ることにより、代表的な邦訳である石井桃子訳と川上未映子訳の原本が異なることの指摘から始めて、その「ずれ」が物語の受容に与える影響について論じてきた。その論点のいくつかは、これまでの『ピーターラビットのおはなし』の読みからは抜け落ちていたものだと思う。今回、2022年になって川上未映子訳『ピーターラビットのおはなし』が上梓されたことで、この小さな物語の持つ可能性が日本人読者に開かれた意義は大きいと思われる。

注

本稿は口頭発表「『ピーターラビットのおはなし』新訳を読む」（英語圏児童文学学会西日本支部・秋の研究会、2024年9月14日、オンライン開催）を加筆修正したものです。

主要参考文献

- いしいももこ訳『ピーターラビットのおはなし』福音館書店、1971。
 川上未映子訳『ピーターラビットのおはなし』早川書房、2022。
 Kutzer, M. Daphne. *Beatrix Potter: Writing in Code*, Routledge, 2003.
 Linder, Leslie. *A History of The Writings of Beatrix Potter*, Frederick Warne, 1971.
 MacDonald, Ruth K. *Beatrix Potter*, Twayne Publishers, 1986.
 Mackey, Margaret. *The Case of Peter Rabbit*, Garland Publishing, 1998.
 Mackey, Margaret. ed. *Beatrix Potter's Peter Rabbit: A Children's Classic at 100*, Scarecrow Press, 2002.
 Potter, Beatrix. *The Complete Tales*, Frederick Warne, 1989.
 ——. *Red Riding Hood*, illustrated by Helen Oxenbury, Frederick Warne, 2019.
 ——. *The Tale of Peter Rabbit*, The original and authorized edition, Frederick Warne, 2002.
 Zach, Emily. *The Art of Beatrix Potter: Sketches, Paintings, and Illustrations*, Chronicle Books, 2016.
 夏目康子「『ピーターラビット』の石井桃子訳と川上未映子訳と機械翻訳の比較——絵本翻訳の難しさと、更新される翻訳」、『大妻女子大学紀要——文系』第56号、2023、31-44頁。

執 筆 者 紹 介

野 田 大 志 (本学准教授……………日 本 語)
NODA Hiroshi

松 永 諭 (本学准教授……………化 学)
MATSUNAGA Satoshi

山 口 均 (本学名誉教授……………英 米 文 学)
YAMAGUCHI Hitoshi

教 養 教 育 研 究 会 委 員

(会長) 鷲 嶽 正 道 (副会長) 糸 井 川 修

(会計)※白 木 優 馬

岩 佐 宣 明	内 田 康 弘	北 村 伊都子
※境 田 雅 章	柴 田 哲 雄	※菅 井 大 地
水 上 茜	三 輪 恭 子	文 嬉 眞
※山 名 賢 治		

※本号編集委員

編 集 後 記

『教養部紀要』第73巻第1号をお届けいたします。本号には3編の論文を掲載することができました。ご執筆いただいた先生方、ならびに編集にご尽力いただいた委員の先生方に心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

次号に向けて、多くのご投稿をお待ちしております。新たな視点との出会いを楽しみにしつつ、本紀要が研究成果の共有と交流の場として、より一層発展していくことを願っております。今後とも、あたたかいご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

本号の編集作業中に、岩佐宣明先生が逝去されました。生前の多大なるご貢献に深く感謝申し上げるとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。(白木記)

愛知学院大学教養教育研究会会則

- 第 1 条 本会は愛知学院大学教養教育研究会と称する。
- 第 2 条 本会の事務所は愛知学院大学教養部に置く。
- 第 3 条 本会は大学設立の趣旨に則り、人文科学・社会科学・自然科学・語学・健康総合科学等の、教養教育に関する諸学の研究成果ならびに教育成果の発表を通じ、学問の水準を維持、向上せしめ教育及び社会一般に寄与することを目的とする。
- 第 4 条 本会の会員は次の通りとする。
- (1) 正 会 員 本大学の教養部専任教員とする。
 - (2) 準 会 員 本大学の在学生とする。
 - (3) 賛助会員 本大学の卒業生及び本会の趣旨に賛同し、会長の承認を得た者とする。
- 第 5 条 本会は第 3 条の目的を達成するために次の事業を行う。
- (1) 機関誌「愛知学院大学論叢教養部紀要」の刊行
 - (2) 研究会、講演会、討論会等の開催
 - (3) その他本会の目的を達成するために必要と認められる事業
- 第 6 条 「愛知学院大学論叢教養部紀要」は原則として毎年 3 回発行し、会員に配布する。
- 第 7 条 本会は教養教育研究会委員会を置き、委員は次の者で構成する。
- (1) 会 長 1 名
 - (2) 副 会 長 1 名
 - (3) 委 員 12 名
 - (4) 会 計 1 名
- 2 会長は学長これを委嘱する。
 - 3 委員は正会員の互選により、人文科学・社会科学・自然科学・第 1 外国語・第 2 外国語および健康総合科学の各系列より 2 名あて選出する。委員の任期は 2 年とする。ただし、再任を妨げない。
 - 4 副会長及び会計は委員の互選により、会長がこれを委嘱する。
- 第 8 条 会長は本会を代表し、会務を統轄する。
- 2 副会長は会長を補佐し、会務を掌る。
 - 3 委員は委員会を構成し、本会の企画運営にあたる。
- 第 9 条 会長は委員会を招集し、その議長となる。
- 第 10 条 会長は本会の会務執行のため、必要あるときは実行委員会を委嘱することがある。
- 第 11 条 会員は毎年度始めにおいて会費を納入する。
- 2 新入会員は入会金を納付するものとする。
- 第 12 条 本会の運営費は、会員の納付する会費、愛知学院大学からの補助金または有志からの寄付金およびその他の収入をもってこれにあてる。
- 第 13 条 本会の会計は 4 月に始まり、翌年 3 月に終る。
- 第 14 条 本会の会則の改正は正会員の 3 分の 2 以上の賛成をもって成立する。
- 付 則

本会則は、昭和32年4月1日に制定し、即日施行する。

本会則は、昭和53年2月6日に改正し、即日施行する。

本会則は、昭和57年3月24日に改正し、同年4月1日より施行する。

本会則は、昭和58年6月17日に改正し、即日施行する。
本会則は、昭和63年4月1日に改正し、即日施行する。
本会則は、平成2年7月6日に改正し、同年4月1日より施行する。
本会則は、平成8年7月19日に改正し、即日施行する。
本会則は、平成11年12月17日に改正し、翌年4月1日より施行する。
本会則は、平成20年12月12日に改正し、翌年4月1日より施行する。
本会則の施行により愛知学院大学一般教育研究会会則を廃止する。
本会則は、平成27年4月1日に改正し、即日施行する。

愛知学院大学論叢「教養部紀要」投稿規程

1988年4月1日成立・実施

〔投稿資格〕

第 一 条 この会誌に投稿する資格をもつ者は、原則として教養教育研究会正会員とする。

〔採用条件〕

第 二 条 他の雑誌に掲載された、または投稿中の論文・資料・翻訳・書評などは、これを採用しない。

〔投稿要領〕

第 三 条 投稿に際しては、次の要領に従って本文、図および表を作成する。

- (1) 原稿は、電子メールによる入稿とする。(投稿用の電子メールアドレス (kykiyo@dpc.agu.ac.jp) に、ワード・一太郎等のワープロソフト文書と PDF ファイルを添付する)
- (2) 原稿の量は日本語の場合おおむね16,000字以内、欧文の場合おおむね8,000語以内とする。
- (3) 本文の前に、別紙で、次の3項を次の順序で付する。
 - (i) 和文の題目および執筆者名。
 - (ii) 欧文の題目および執筆者名。
 - (iii) (イ) 論文・資料・翻訳・書評などの区別
(ロ) その論文・資料・翻訳・書評などが属する専門領域名。
ただし、ここにいる専門領域は、人文・社会・自然・外国語・健康総合科学の5部門に区別する。
 - (iv) 教授・准教授・講師・助教・外国人教師など別
- (4) 論文の冒頭に題目、論文要旨、5個程度のキーワードを記載する。
- (5) 図・表・写真は、印刷するのに十分な画質のもの（原則としてモノクロ）を、本文の該当箇所挿入する。

〔原稿の申込み〕

第 四 条 投稿希望者は、教養教育研究会委員会（以下、委員会と称す）の公示する期限までに、委員会の提示する申し込みフォームに必要事項を入力する。
ただし、申し込み者が所定の数に達しないか、またはそれを越える場合には、委員会がこれを調整する。

〔提出期限〕

第 五 条 投稿は委員会の定める提出期限までにこれを行う。締切り日以後に提出された原稿は掲載されないことがある。

〔原稿組版の制限〕

第 六 条 図版・カラー写真などの掲載により一般の経費より多くかかる場合は、その必要性を各号の編集責任者に申し出て委員会を開催して審議し、承認を得ることとする。なお、承認を得られず掲載を希望する場合、その費用を別途に個人負担とする。

〔原稿修正の制限〕

第 七 条 投稿後の原稿の修正は、原則としてこれを行わないものとする。やむをえない場合は初校において修正し、その範囲は最小限度にとどめる。大幅な修正の結果、印刷費が追加されるときは追加費用を個人負担とすることがある。

〔校 正〕

第 八 条 校正は原則として第3校までとし、本文については執筆者がこれに当たり、表紙・奥付その他については編集委員がこれに当たる。

〔抜き刷り〕

第 九 条 抜き刷りは、原則として印刷しない。抜き刷りが必要な場合には、執筆者はその必要全部数を原稿の表紙に朱記する。抜き刷りは50部までを無料、50部を越える分については執筆者負担とする。

〔掲載論文等の複製権・公衆送信権〕

第 十 条 この会誌に掲載された論文等の電子化および公開に関わる複製権および公衆送信権は、教養教育研究会に属するものとする。

ただし、掲載された論文などの執筆者が他の機関への転載もしくは複製権または公衆送信権の行使を申し出た場合は、正当な理由がない限り、教養教育研究会はこれを拒むことはできない。

付 則

- 一、本規定の改正には、教養教育研究会正会員の3分の2以上の賛成を要する。
- 二、本規定は、1988年4月1日に成立し、即日施行する。
- 三、本規定は、1996年7月19日に改正し、即日施行する。
- 四、本規定は、1999年12月17日に改正し、翌年4月1日より施行する。
- 五、本規定は、2003年11月21日に改正し、即日施行する。
- 六、本規定は、2005年4月22日に改正し、即日施行する。
- 七、本規定は、2007年11月16日に改正し、即日施行する。
- 八、本規程は、2018年9月21日に改正し、即日施行する。
- 九、本規程は、2025年5月23日に改正し、即日施行する。

申し合わせ（教養部会 2010. 7. 16）

- 第一条の「投稿する資格を持つ者」には、以下の非正会員を含む。
 - (1) 正会員との共同執筆による投稿
 - (2) 正会員が推薦する本学教養部の非常勤講師で、本務校をもたない人の投稿
 - (3) 元正会員で、本務校をもたない人の投稿
- 上記(1)(2)(3)に該当する投稿希望者がある場合は、担当編集委員が投稿の可否を決定し、投稿希望者に通知する。担当編集委員で判断できない場合には、教養教育研究会委員会を開いて投稿の可否を決定する。
- 投稿原稿の掲載に際しては、(1)の場合の原稿料は1篇分とし、(2)(3)の場合の原稿料は支払われない。また、(1)(2)(3)いずれの場合も原則として抜き刷りは印刷しない。印刷を希望する場合には、50部までは無料とし、50部を越える場合には執筆者負担とする。

- 投稿者は、第三条の〔投稿要領〕を厳守する。
 - 投稿された原稿について担当編集委員から検討の申し出があった場合は教養教育研究会委員会を開き、委員会名において訂正を依頼したり投稿を断ることがある。
 - 第六条「図版・カラー写真の掲載」については、紀要作成予算の範囲内と見なされる場合、その採否は紀要編集委員の決議にゆだねるものとする。ただし、予算の範囲を逸脱する、あるいは採否の決議が困難の場合は教養教育研究会委員会を開催して、決定することとする。
- (注) 教養教育研究会が本会正会員の著書・論文等について書評を依頼する場合は、原稿料を支払うこととする。

令和7年9月1日 印刷
令和7年9月10日 発行

(非売品)

愛知学院大学論叢
教養部紀要第73巻
第1号 (通巻第207号)

編集責任者
鷲 嶽 正 道

発行者 愛 知 学 院 大 学
教 養 教 育 研 究 会
〒470-0195

愛知県日進市岩崎町阿良池12
電 話 〈0561〉 (73) 1111 (代表)

印刷所 株 式 会 社 あ る む
電 話 〈052〉 (332) 0861

THE JOURNAL OF AICHI GAKUIN UNIVERSITY

Humanities & Sciences

Vol.73 No.1
(Whole Number 207)

C O N T E N T S

Articles

Hiroshi Noda : The Meanings and Usage of *Serebu*..... (1)

Satoshi MATSUNAGA : Synthesis and Characterization of New Open-Dawson Polyoxometalate
Containing Pd Complexes (27)

Hitoshi YAMAGUCHI : Reading The New Japanese Translation of *The Tale of Peter Rabbit*..... (35)

Published
by

Aichi Gakuin University
Nagoya, Japan
2025